大日本蠶絲會報

第五拾八號

明治三十年四月

目次

●論說
○日本蠶業改良意見　名譽會員墺國侯爵　チンブリニー、ゴンザガ
○給桑の手樣　大日本蠶絲會員　境野清衛
○蚕の遠調に就て　大日本蠶絲會員　關根大左衛門
●寄書
○蠶絲業組合の不振　大日本蠶絲會員　柏原爲美
○蛆害驅除方法新案　柳原松之助
●統計
○三十年二月中生絲屑類輸出數量元價及收稅統計○三十年二月中絹物類輸出數量及元價統計○最近九箇月間生絲輸出調査表
●問答
○蠶蛆に附き質問并に答○自强相に就て質問并に答○蒸染の變化を前知する方法に就て質問并に答
●外報
○佛國絹布產出及貿易狀況○世界蠶業の狀勢
●雜報
○大日本蠶絲會第六回大集會○評議員半數改選○評議員會○幹事長及幹事の當選者○大日本蠶絲會規則中の改正○大日本蠶絲會規則中の改正○山形支會設立○パストール博士の銅像○染樹害蟲防法○生絲檢査所官制中改正○松永伍作氏の清國行○飼育中に蠶室を移轉す○蠶種家は販賣業に屬す○四遠支會の祝辭と答辭○支那種調査日本種調○工女製絲家を訴ふ○手數料直上げの議○安南魯秋蠶種改良會○四ヶ原の蠶業○小松宮御別邸の養蠶○原紙に紋芝すべし○靜化蠶那の繁榮○横須賀生絲檢査所生絲檢査調○蠶絲業に關する議出雲算○島根縣蠶絲業組合蠶業講習所開所式○青森縣の蠶業と藤井竹綱氏○高座郡農會の發會式○宮城農學校蠶友會○川上實業補習學校○松田大島須藤の三氏○四遠支會規則○四遠支會役員○伊達郡蠶種業者の運動○蠶授賞草下賜

●大日本蠶絲會第三回品評會開設廣告

本會第三回品評會來る十月二十九日より三十一日まで三日間東京市赤阪區赤阪溜池町大日本農會會堂に於て開設候に付き會員諸君は可成御出品あらむことを希望す但し本會々員外と雖も篤志者の出品は之を諾し可成的多數出陳致し度に付き右出品方精々御勸誘相成度此段特に希望致候也

●大日本蠶絲會第三回品評會出品の種類其他要領左の如し

一　出品の種類並に數量を定むること左の如し

蠶種　一種に付（超製五十繭分以上　普通製一枚以上）

繭　同　一升以上

生絲　同　一捻（十八匁）以上

一　出品は總て出品人自家の產製に限るものとす

一　出品は品評會の費用を補ふ爲め總て本會へ寄附せらるゝものとす但し出品人に於て特に返還を望まるゝものは相當代價を得て返付すべし

一　出品は十月二十四日までに會場に遞送せらるべし但し出品運送費は總て出品人の自辨とす

一　出品は審査委員之を審査し其優等なるものには左の四等に區別し褒賞を贈與す

一等　賞杯

二等　同

三等　賞品

四等　褒狀

一　會員外の出品には褒狀を贈與し賞品を贈與せざるものとす

東京神田區美土代町二丁目一番地

大日本蠶絲會

故パスツール博士銅像
佛國ガール縣アレイ市公園に建設

大日本蠶絲會報第五拾八號

論說

◉日本蠶業改良意見（第六回大集合演說）

名譽會員　墺國侯爵　チンブリニー、ゴンザガ
通譯者　今西直次郎

唯今の御演說を通譯いたします、諸君、先づ第一に會員諸君に御禮を申上げますが大日本蠶絲會名譽會員に御推選下されまして私の大に光榮とする所でございます、私幼少の時に當りまして聊か此蠶絲の業に與りましたことがございましたが、其後久しく此業に關係いたしませなんだ、然るに私が此東洋に居留すること茲に十有九年を經過いたしまして此業に就いて多少見聞いたしましたことがございます、而して生絲檢査所と又此名譽ある大日本蠶絲會とに關係することとなりまして大に研究するの便を得ましてございますから及ぶ丈け盡力して諸君の御厚意に報い且つ此熱心なる會員諸君の一人に加はらんことを希望するのでございます、偖蠶絲の事に就きまして聊か御話いたしたいことがございます、抑〻此日本の生絲の業に就きまして鄙見を述べたいのは、此業は今日殆んど困難なる地位に達

して居るであらうかと考へて居るのでございます、先づ隣國なる支那の狀況を觀察いたしまするに支那の生絲は頗る劣等なる生絲でありまして其輸出の高も甚だ多いのでございます、從來甚だ劣等なる生絲ではありましたが、近頃上海に於きまして此生絲が非常な進歩をいたした譯でございまして、其進歩が歐米各國の市場に非常なる影響を來して居ります、此競爭たるや獨り日本に對するのみならず支那、伊太利、佛蘭西にも及ぼして居りまして現に上海に設けある製絲所の數は二十七箇所でありまして、而して此製絲業に關係して居る技術者は完全なる製絲所程外國人を用ひて居りまして殊に伊太利人が多いのでありまして、其生絲の製產高は年々凡そ六千五百ピキュールでありまして九デニールまでの細き絲を製出いたして居ります、要するに上海で製造いたして居りまする生絲は強力と云ひ伸度と云ひ又色澤と云ひ佛蘭西のセベーヌ伊太利のクラシック即ち七デニール若くは八デニールの細目ものと同一の價値を有して居るのでございます、獨り上海のみならず廣東に於きましても數年來歐式の製絲所を增設いたしまして其數は凡そ八十箇所に達して居ります、其生絲も頗る佳良でありますが、此生絲の性質は日本の生絲及支那の北部或は支那の中央で生產する所の生絲の性質とは大に異つて居りまするが、第一直は安く從つて需要に適するものでありますから歐米市場に於ても需要者の嗜好に投合すると云ふ譯で年々歲々に殖えて來る有樣でございます、其製產する所の生絲の高は年々二萬五千乃至二萬六千ピキュール輸出して居ります、斯の如き支那の生絲の有樣でありまするから此競爭に打勝つことは如何いたしてよからうか諸君も能く御承知でありましやうが、熟々此日本の製絲所の有樣を觀察いたしまするに小製絲所の不完全なる組織で不揃なる生絲を澤山に寄せ集めて輸出する有樣でございまするから成るべく完全なる製絲所を增設して善良なる繭を選定し纖度を均一にし或は小節或は大節、殊に近頃世上にやかましく唱へて居ります輪節の如きものを取除かねばならぬことゝ信ずるのであります、從來斯かる缺點の多き生絲を輸出して居られますから歐米各國の需用者は如何なる感じを以て居るかと云へば、第一横濱に居留する外商人は勿論歐米の需要者も常に此缺點に就いては非常に歎息して居るのであります、固より私は日本の生絲が殘らず粗惡であると云ふことを御話する譯ではない、或る縣に於きましては頗る美事なる生絲を拵へて居られますが、概して御話をしまると前に申上げたる樣なる次第であります、尙ほ茲に一つ甚だ憂へなければならぬことがある、夫は彼の微粒子の件でございます、此病毒は曾て伊太利、佛蘭西、西班牙及墺太利の南地方に於きまして非常に蔓延いたしました、其當時白殭蠶即ち「コシヤリ」病の如きも流行いたしましてより茲に三十有餘年を經過いたしました、其時幸にして日本から善良なる蠶卵紙を仰ぎ且つパストール博士の發明に係る撰種の方法に依つて此微粒子毒を撲滅することになりました、是が爲に伊太利、佛蘭西、西班牙、墺國等に於ては昔非常に困難を極めました所の蠶種を恢復することになりましたのでございます、我墺國に於て嘗て之が爲めに非常に困惱を來した時に日本の種の輸入を待兼て居りましたことを記憶いたし

て居ります、尙ほ茲に一つ奇異なる御話をいたしたい事がありますが伊太利、佛蘭西にて復製しました日本の青白種又は白種を伊太利種或は佛蘭西種と掛合せいたしましたが其後漸々歳を經るに從ひ全く黄繭種に化しました、此繭は今日伊太利の統計に據りましても明かなることでございますが、此繭種は同國の製絲所に於て最も多く使用して居るのでございます、是等の事に就きましては政府も色々に御心配になりまして既に蠶業講習所を設けられ、又本年は蠶種檢査法案を國會に提出になり兩院を無事に通過せられまして既に其法律も發布になりました、實に當業者の爲めには頗る利益を與へらるゝことゝ存じますが、此蠶種檢査法を實施せらるゝと同時に茲に一つの希望がございます、即ち前に御話いたしました蠶種の掛合せでございます、此蠶種の掛合せを爲して強壯活潑なる蠶兒を造るにはどうしても外國から健全なる蠶種を輸入して夫と掛合せをすることが必要であらうと考へるのでございます、總て之が改良を施すの目的を以て種子の交換を爲し強壯活潑なるものを得ることは論理上に於きましても當然の事でありまして殆んど動物界の一の規則になつて居ります、要するに蠶絲は天賦の物産なること斯の如きものでありまして殊に日本の爲めには貴重なる物でございますから、何卒政府に於かれましても又當業者諸君に於かれましても宜しく茲に注意をせられまして生絲改良の本分を盡されむことを希望するのでございます（拍手大喝采）

大日本蠶絲會員　境野清衛

◎給桑の手續（第六回大集會演說）

私は學理と云ふことは知りませぬが、實地に就ての研究は三十四五年來親から扱つて居りますが、併し未だ蠶の上結果と申すことは難うございます、是迄に五十六箇國を漫遊しましたが、どうも自分は斯うして養蠶を改良したら宜いと云ふ手立ではございませぬ、只自分がやりたいと云ふ樣にして今やつて居ります、明治元年横濱へ種を出す時に同地へ出て見ました、其時分の蠶の飼育と云ふものは清凉飼が流行しました、其清凉飼に就て明治元年から八年迄に失敗をして仕舞ひました、夫れで全く自分丈けは善い種だと思つて横濱に持つて行つて異人さんに賣つて見ると、どうも悪い、異人さんが買はない、買はないから面當てに皆燃して仕舞うが宜いと云つて日中横濱の羽衣町で燃したことがあります、元が悪いから買はないと云ふことがどうしても分らない、自分の種は善いに違ひないが、夫れを買はないから面當てに三遍燃したがどうも買はない、買はないのは自分のが悪いから買はないので、遂に蠶の爲めに身代迄皆失敗して仕舞つた、夫から處々を遊歷して見ましたが、此飼方は上州はどうするか埼玉はどうするかどうも分らぬ、仕方がないから親から扱つた所の飼育に種々注意を加へて夫れで只今でもやつて居ります、夫れで親から扱つて居るのは今の樣ではございませぬ、實に粗漏である、先づ四眠後であると一日に二回の桑を遣る、どの位遣るかと云ふと「せめ」桑を此位遣る、上り前になると蠶が頻に出るから籔へ持つて行つて葦の簀を配つて桑を其れに移して昔は飼つて居つた、夫れで清凉育が流行して蠶には桑を澤山遣らなければならぬと云ふことが流行しました、夫れは元は

蟻量五匁の青白であります、其五匁に對する蠶にどの位遣つて宜いかと云ふと、二十五駄遣らねばどうしても善い種は出來ない、三十六貫目一駄にして二十五駄の桑を遣らなければならぬ、所で飼方はどうかと云ふと、蠶は溝飼でなければならぬ、私共以前は三尺に六尺と云ふ大籠でやりました、夫れでどの位迄先づ揩立るかと云ふと十二坪に揩立ました、夫れから毎日一籠づゝ出して初眠は十籠で休ましたことがあります、夫れで桑はどの位遣るかと云ふと、さう云ふ時分は火が無く極く寒い、給桑は一晝夜十五回迄遣ります、どうか斯うか青白の蠶であれば、二眠三眠迄やつて來て四眠になると上に上がるどころではなく下が八分で上が二分位であります、どうも桑の多過ぎることが分らぬ、そこで桑は半分食うと棄てゝ仕舞う、善い種を拵えるには骨まで嚙らしてはいかぬ、半分食はしたら構はず棄てゝ仕舞ひ、さうして手をかけて十分に蠶を飼つてさうして遂に身代迄失敗しました、明治九年から段々親の扱つた所の飼方に注意を加へて桑を減じてやりました、只今ではどの位で仕上げるかと云ふと、正葉百貫目で一貫目の絲を拵へる迄に減じて來ました、多くて百二十貫目位である、夫れで小さい中から、段々調べていつて生絲一貫目迄は拵へ得る樣に減じて來ました、夫れより減ずると却て害になります、其代り人樣のやうに百目の繭で十二匁平均と云ふ譯には私共のは出來ませぬ、先づ百目の繭で十匁を止めとして居ります、蟲は先づ種飼で一番の盛りに躰量平均八分と云ふ樣にやつていきました、決して私共は蟲は大きく致しませぬ、蟲を大きくすると簇になつて趣を乾すに世間を兼ね

て表に乾さず裏の方に乾すやうなことが出來ます、どうしても腕が足りぬか知らぬが、一匁二分に育てると簇になつてから死ぬ蠶が澤山出來ます、さうすると趣は表に乾せぬから裏に持つていつて乾す、さうでないと人樣が來て見るときは死物を方附けてからでなければ見せることが出來ませぬ、大きく飼うとさう云ふのが澤山出來ます、夫れは土地に依つて色々申しますがお相撲樣とも言ひ、節高とも言ひ、馬鹿おことも言ひまして斯う云ふのが澤山出來ます、其中で選べば一升二升は善い繭が出來ますが、あとは產れ損ひである、絲に取つても絲目がない、夫れで親が扱つたものに注意して飼たら宜しいと云ふ所で只今では百目の繭で十匁位の絲よりほか私共は出さぬやうに飼つて居ります、さうして平均一枚飼九分で、遲蠶は八分、早蠶は九分、種飼が八分より育てませぬ、夫れで私共の出殼は商人が貰ぬませぬ、傳習所で取る出殼は錢になりますが、先きにいつて仕事を致しませぬ、夫故私共は種繭の蠶はどこまでも躰量八分位に止めて居ります、さうして早蠶にするときはさう云ふ工合に桑を使つて居る、厚飼にするときはさうでない、以前親から扱つたやうにせず只今では入梅に上げて仕舞ひます、十文字の桑は種繭には柔いから此桑を使つて居ります、夫れから此間私は小さな傳習所を持つて居りますから子供を集めて種々養蠶の事を教へました、一月の日曜から十歲以上の子供に一時間づゝ教へることに致しました、併しどこにも模範になるべきものがございませぬから仕方なく學校へ十日間通つて學校の教へ方を見ました、夫れから又色々の養蠶所を見ましたが、どうも斯うしてやつ

たら宜いと云ふ材料が見付かりませぬ、見付かりませぬが先づ自分丈けは只今やつて居ります、十歳以上の生徒が百八人居ります、夫れを一時間づゝ教へて五つに分けてあります、夫れで何を先きに教へるかと云ふと、蠶種の貯藏で種屋から種を取ればどう云ふ所に吊して宜いか、いつ迄貯藏して宜いかと云ふことを教へます、夫れから大勢を教へるにはどう云ふ所を目的として宜いか、どうも世間に能く話しがございますが、櫻の花や牡丹の花が出たら種を出せと云ふ所がある、昔清明になれば出せと云ふことがあるが、氣候の早い年や遲い年があるから清明を眞にすることは出來ない、夫れから牡丹の花を蠶に遣るが宜いと云ふが蠶は食ひませぬ、私共は桑か目的でございますから早桑の芽が出來て頭の方が青くなり始めた所を目的とせよと云ふことを教へます、夫れで是は年に由りますが、年々桑の試驗で見ると青くなり始つたときから概畧二十二日位經つと之が丁度四葉位になります、夫れで此頭が青くなり始つてから種を貯藏器から出してさうして八疊又は十疊の間であれば北の方の所へ三日置き、中程に三日置き、南の方に三日置き、都合九日置いて夫れから室に目貼りをして中に火力を用ゐて、始め五十九度にして其翌日は六十度にして毎日一度づゝ上げて丁度七十度で發生するやうにすると、恰も桑の芽が四葉出たときであります、さう云う手順を以て教へます、夫れから中が乾くことがある、其乾くのは何で知るかと云ふと、種紙の反り加減で知れます、種紙が斯う中に反つたら乾くと云ふことが知れるから其時豫防をします、夫れは何を以て豫防するかと云ふと、火鉢に鐵瓶を懸

けて室内に水分を蒸發させるので、若し夫れで利かぬときは莚を濕して室内に下げる、夫れでもまだ利かない時には仕方がないから棚に水を注して種紙の下に置く、夫れでもまだ利かぬときは蓬などを持つて來て種の周りに置く、さうしてなるべく種紙が反つたら之は平かにしなければならぬ、さうすると段々種紙が水分を吸つて來るから水分は無ければならぬ、己むを得ぬときは下に直接に水分を與へるが溫度を下げるのは害になります、直接に水分を遣つた時の溫度は七十二度にしなければならぬ、直接に水分を遣ると蠶が冷える爲めに出殺蟲をして仕舞う、夫故間接に水分を遣らなければならぬ、夫れから愈〻蠶が出たら之を選上げて五十か七十出たら明日は澤山出るから其晩は七十度にして、取込み桑は、明日の蟻量三匁に付いて五十目位を取る、其晩溫度を下げたら翌日十二時に掃立てる、若し天然の氣候が上つて八十度になつたなら十時に掃立てる、溫度が下つて外氣より寒い時は一時に掃立てると云ふことの手順に教へました、夫れから包紙を持つて棚の三つ目位の所に出して置く、若し北風が吹いて乾いたなれば四つ目位の所に置けと云ふことを教へました、さうして愈〻翌日になつて掃立てるときは十二時に掃立てるなら十時に準備をする、其準備は籠を持つて來て夫れへ莚を敷いて其上に粉糠を撒げる、夫れから掃立てるときは必ず紙を解く、此時は南風が今日は吹くと云ふことをボールドに書いて置く、北風の激しい時は南から口を開けと云ふやうにしてさうして口を開いたら其蠶はどう云ふ所で掃立てるかと云ふと種紙を手に取つて透して見ると、すつかり蠶の毛がおつ立つ

て此所で蠶が首を揮つて活潑になつた所で掃立てる、之が眞に熟した時である、透して見て毛か濕つて居つてゐつ立たないのは元の所へ置いて五分か十分經つて又之を透して見ると、すつかり毛がゐつ立つて薄雲の懸つたやうになつて首を揮つて活潑になつて居るからそこで掃立てる、其中に虛弱性の蠶が有るか無いかを見る、其時只見ては分らない、夫れは種紙を返してそつと振つて見ると絲を曳いて眞直に下がる蠶がある、そつと之を振つて見ても一時に下らずして上に上がりたがるのは宜いが、振つて見た時に眞直に絲を曳いて下がるのは其蠶は駄目である、早く手當をして其蠶は樂てゝ仕舞う、若し早まつて振ると澤山落つるから其ゆすぶり加減は六ヶ敷い、振つて見て一時に下らぬから先づ今年の蠶は確であると安心して元の所へ置く、で其蟻が三匁出たら粟糠を三合にして丁度蠶の頭の出る位に振つて呼出し桑を附けて遣る、籾糠を炮烙の上で煎つて聖色にしてすみ糠を拵えて、夫れを少し揉むと毀れる、毀したのを遣る、其上へ呼出し桑を附けて遣る、掃下すときは決して強く掃いてはならぬ、夫れを手を取つて子供に教へたら皆出來ました、夫れからすつかり掃下して仕舞つて四隅を取つて一所に寄せる、扨粟糠を混交するのは子供であるから激しいから教へるには激しく教へて段々に柔かにやつていきます、夫れから桑は何であるかと云ふと、土地に由つて名は變りますが、私共の方では「はた草」と言ひます、又土地に由つて龍の髭と言ひまして掃下にある所の草を取つて鋏で切つてあれを桑の代りに粟糠と混交して夫れで桑を遣ることを習はせました、桑を遣ることは今迄やつたことが無いから知りませぬが、一定にして斯う云ふ風にして桑を遣ると云ふことを覺えて來れば譯はありませぬ、給桑は斯う云ふ風にして遣る、蟻量一匁に付て三匁の桑を與へろ、三匁の蟻は三坪に掃立てろと云ふやうに教へました、夫れから今度は問題が變つて給桑の手續きであります、給桑は平らに隅から隅まで片寄らぬやうに遣るが宜い、むらに遣ると蠶が不揃になるからいかぬ、空氣の流通が悪いと蠶が逃げる、又風が當ると蠶が逃げる、夫れで障子に穴でもあれば目貼りをして遣る、光線が強ければ簾でも釣つて暗くして遣る、而して蠶に十分運動させて夫れから復た遣るが宜い、暖かいときは油斷してはならぬ、暖かいときは決して油斷せず遣るが宜い、六日間で眠るものなら起てから二日が小食、二日が中食、二日が大食である、夫れから一番の食盛りは蠶の身躰が青色になる時である、其時は十分桑を遣つて飴色になつたら、其時は糠掛けをして十分に桑を遣る、夫れから遲眠りのものを取つて網を懸ける、網がなければ粟糠を振つて遲眠りのものを取る、さうすると早蠶は休む、休んだら桑止めをする、夫れで種々其方法に就て鄭重に教へていきました、夫れから又何匁の桑を遣り、何日目に上簇する、上簇するときはどう云ふ手順ですると云ふことを教へて行く積りでございます、夫れで是丈けの事を教へて置いて片端から聞いて種屋から種を取つたらどう云ふ所に置くかと云ふことを一々質問していきます、是は成丈け出來ない人の方から先きに質問をして行きます、出來る方の人からすると眞似をするから夫れで出來ない方の人からしていきます、夫れで教へたことの答辯

が出來なければ他の問題に移ることは致しませぬ、是はどう云ふ結果になるか知れませぬが、此間蠶絲會の雜誌に本多さんの說が出て居りましたが、實に世間の養蠶家には恐れる、私共が漫遊して見まするにどうも此土地ではあの人が大層熱心であると云つて只鼻ばかり高くしてお天狗樣になつて居る、夫れで全國漫遊しても未だどう云ふ所が桑の熟したと云ふことは判然致しませぬ、只私共の地方の埼玉縣で老練家の萩原空衛と云ふ人が在りますが、此人は蠶絲會の會員で、此人が敎へたには桑の熟したのは木を動かして實の落つるときが桑の熟したときであると敎へました、私は桑の熟したのは早生桑でも中桑でも晩桑でも新葉から元葉まで十二枚と云ふ所が丁度熟した所であらうと勘定して居ります、夫れから温度は七十度より下げずに飼つていくと概略四十一日に上簇致します、夫れで四十一日に上簇して種を取る迄に丁度二十日間位で、暑い寒いがあるから蛾の出るには二十日間かゝる、發生して六十日間で命が終ると考へます、丁度人間の一年と蠶の一晝夜と平均する、人間の一生を六十二年と見ると、桑の葉も青くなり始つた所から十二葉になる所が六十二日目になります、是は私共の傳習所で試驗致しました、蠶の命も丁度六十二日目位で終ります、夫れから呼吸のことを學士に聞くと、一抄時間に三十六回で、人間も一抄時間に三十六回で丁度釣合つて居ります、夫れで桑の熟したのはどう云ふのが熟したと云ふことは私共全國を漫遊しても敎へて呉れた人は無い、善い絲を拵えやうとしても中々出來るものでないと考へます、夫れで此絲の事も私共は試驗致して居りますが、どうして

も無暗に蠶を早飼にして八日市の桑で八枚か九枚葉の出た所で上簇させては絲の善いと云ふ譯にはいきませぬ、どうか斯う云ふことは皆さんに色々試驗をして戴かねばならぬことゝ考へます、まだ私は絲に就て申す事もありますが、是は問題外になつて餘り長くなりますから是丈けにして置きます（拍手大喝采）

◎簇の速製に就て

第六回大集會演說

大日本蠶絲會員　關根太左衛門

私は矢張り蠶絲會員の諸君の傍に連なつて居りまする者でございますが、蠶種飼育の事に付きましては何にも知らない者でございます、併し蠶具に就ては斯う云ふ品物が要ると云ふことは皆樣から伺つて居りますし、又農具に就ては斯う云ふ品物が要ると云ふことは承知致して居ります、でどうぞ一人で五人ぶりの仕事が出來るとか、又は三人前の働きを爲すとか云ふものを案出致して之を諸君に使用して御貰ひ申せば、先づ御使ひ爲さる方は經濟上申すまでもない話でございます、隨て案出致しました所の私に取つても幾分か利益があります、夫故斯う云ふものが世の中にあつたら宜しからう、アー云ふものがあつたら宜しからうと云ふことを伺つて案出いたし、さうして又地方の方にも宜しいものがあつたらどうぞ知らせたいから完全不完全に關はらず今日の日用品同樣の蠶具農具であつたらどうぞ善惡に關はらず報道をして貰ひたいと云ふことは朝夕言つて居ります、夫で今日簇の速製に就てと云ふことを茲に掲げましてございますが、實物を持參致しましたからどなた樣でも御自分で一つ製し

て見て時間が何分かゝつて徑六寸、長さ四尺餘の簇を何程製造することが出來るか、又是までの簇と云ふものに付きましては申上げるまでもなく御承知の通り藁で島田の樣に結つたり又地方によりますと箒の上へ繩を綯つて種々にして居りますが今回新規に成立ちました簇は丁度洋燈ののゝヤ掃除の樣な風に製し上がりましたのであります、其簇に掛けますのはどう云ふ利益があるかと申しますと、老人の方々に段々試驗の上聞きますと、第一は空氣流通が良く、又普通は蟲の毛の樣なものでも邪魔になつて夫が爲めに二つ繭が往々出來る、併し此簇なら二つ繭が出來ないことは明である、又蟲も從つて繭を掛けるに苦まない、併し掃立てました絲も幾らか彈力があるに相違ないと云ふ所までは試驗は致しませぬでございます、夫で器械を今回の大集會に諸君の御參考に供したく存じて持參いたしましてございますからどうぞ代る〳〵に御覽下されてさうして御自分で繰り出して御覽なされむことを偏に願ふのでございます、尙ほ繰出しましたものは御自分で御持ち歸りになり御試驗下されば今年の春蠶には好都合でございます、本機械は廣告では千本と書いてございますが、其實七百五十しか出來ませぬ、さう云ふ器械を今回成功致しましてございまするから私は唯夫のみを申上げて實地の利益不利益のことは申上げずとも諸君は御了解のことでありませう、私は夫れだけの御話を申上げるのみで唯今此處へ機械を持參いたさせますから御覽を願ひます

編者曰く第二回小集會の演說にして未だ揭載を爲さゞるものあり然るに編輯の都合にて今回は之を闕きたれども次號よりは第六回大集會の筆記と共に收載すべければ請ふこれを諒せよ

●寄書

●蠶絲業組合の不振

大日本蠶絲會員　柏原爲美

備作の蠶業は近年長足の進歩をなし來り明治二十七年に至り時の岡山縣知事は農商務省令組合準則に基き蠶絲業取締規則を發布し縣下十三箇所に組合を設け岡山市に其取締所を置き各組合を統轄し製絲用種の檢査を行ひ大に斯業を鼓舞する所あらんとせり爾來年を閱すること玆に三四年に及び其實際に於て効力を奏しつゝあるや否やに至つては大に疑ひなき能はざるなり

余輩熟ら〳〵取締規則實施以來取締所のなしたる事業を看るに漸く蠶種の檢査を行ふに止まり毫も他に爲す事なく否な爲すことあるも放任して顧みざるなり且つ統治其宜しきを得ざるが故に複雜なる法規の如き多くは無用に歸し實際に其効力を示しつゝあるものは甚だ稀にして組合員は更に取締所の精神のある所を知るに苦み單に蠶種檢査の爲めに設置せられたるやに誤解するもの多きに至り取締の二字は殆んど全く放棄せられんとせり現今に於て殊に其然るを見る

回顧すれば取締所設置以來頭取を更ふること玆に二回に及びぬ前頭取は就任期甚だ短く且つ組合の創設に際したれば其事業を見る可きものなく前の副頭取たる渕大坊益三郎氏出でゝ頭取となるや吾人私かに縣下蠶絲業の爲めに盡瘁する所あらんことを期せしに豫想は全く之に反し毫も其成績の見る可き

ものなく絶えて斯業の振興を計らんとするの意思なきものゝ如し加之一時會社熱の勃興せるや頭取は自己の管理せる會社の事務を取締所に於て取扱ひ理事以下の職員をして此に從事せしめ公然其標札を掲げて憚らざるに至つては誰れか其無謀に驚かざるものあらんや頭取の意思既に斯の如く只自己の營利の外又敢て他を顧みるの暇なきなり故に取締所は事務の澁滞をなし敏捷なる檢査員の如き聊に就くものなく假令從事するものあるも其技倆を示すに由なきなり取締所の事業の擧らざる素より其所のみ現今に至りて漸く雜多なる會社と分離するに至りしも取締所は更に眞面目を改めずして組長は再び前頭取を擯擧するに至る吾輩は敢て其擯擧に非難を加ふるものに非ずと雖も頭取にして熱心事に當らずんば取締所は到底其能力を示す能はざれば現頭取にして進んで奮勵するの勇氣なくんば寧ろ其職を退くに若かざるのみ因循姑息は吾輩の欲する所にあらざれば なり

取締所の現狀既に斯の如し更らに進んで各組合の實況を觀察するに熱心斯業の改良進歩を企圖するの地方なきに非ずと雖も多くは有名無實の如き有樣にて組合員は費用を徴集せられても其用途を知る能はず故に遂に其徴集に應ぜず爲めに組合は事業を企てんと欲するも得ずして却つて養蠶家の嫌忌を招くが如き有樣なる事多く其根本的施政の宜しきを得ざるに因り實業者の歡心を求むる能はずして愈〻相疎隔するに至り且つ取締所の處置其當を得ざるが故に各組長の如き亦爲すあるものの少し是を以て當業者は組合の必要なることを知らんと欲するも得べからずして遂に無覩するものあるに至らんとす又取締所と組合との間の聯絡に就て一言せざるを得ず明治二十九年に至り監査員を廢してより取締所員の縣下を巡回すること甚だ稀にして漸く文書の往復をなす位に過ぎざれば是亦統轄上幾多の不便を生じ居るや知る可からざるも敢て意に介せざるものに似たり

本縣取締規則實施以來唯一の事業たりし蠶種に關する規定の如きは嘉す可きが如しと雖も事實は全く之に反し單に名義の一定せるのみにて往々異種の種類を用ひて規定の名稱を附す假令同一の種類たりと雖も原種を異にし風土を異にすれば從ふて其性質を異にするものなり此規定たるや却つて他に善良種あるも飼育し得ざるの不便を生ず寧ろ蠶種の合同購入を奬勵して或る地方を限りて蠶繭を一定せしむるに如かざるのみ斯る事は試驗場若くは高等養蠶傳習所設置の上實行し得るものにして其機關を缺きたる今日に於て之を實施するは早計たるを免れざるなり次に蠶種檢査法實施以來本縣の蠶種が精良に赴きしや否やを見るに他府縣より輸入する蠶種は漸次精良に赴きしが如しと雖も縣内に小製種家の增殖せし爲め蠶種は一層複雜に赴き技術なく經驗なきの輩にして徒に蠶種を製造するに至りしを以て愈〻粗濫に流るゝを免れず假令檢査法を嚴行するも小製種家の增加は蠶種改良上喜ぶ可き現象に非ずして輸入を防遏せんとし却つて粗製の蠶種を增殖するが如きに至つては大に憂ふ可きの徴候にして宜しく匡正する所なかる可からず其他養蠶と云ひ製絲と云ひ改良す可きこと一にして足らずとするも健全ならざる組合に向ふて希望する所あるも到底其目的を達せざれば他日時を俟つて意見を吐露することあるべし

蠶絲業組合の經費は各蠶絲業者の負擔する所にして其幾分を組合の費用に供し而して他の幾分を取締所の費用となすの規定なるも組合員の其費用を出金するもの稀にして爲めに取締所は蠶種檢査料と地方税との補助に依り漸く本年迄維持し來りしも明治三十年度に至り地方税の補助を廢したれば取締所は其維持に苦み直ちに各組長を招集して協議する所ありしが此程に至り蠶種一枚に付き十二錢と云ふ高價極まる檢査料を徴收し以て取締所の費用にせんとせり是れ物の本末を誤まれるの甚だしきものと謂はざる可からず檢査料は實に其の名の如く蠶種の檢査に要するの費用にして取締所の經費に充用す可き性質の者に非ず間接に養蠶家より徴收するものたりと雖も實に不當の事と謂はざるを得ず然るに其徴收し易きを名として檢査料を値上げせしに至つては取締所の無能力を自ら示すものに非ずして何ぞや若し取締所にして統治其宜しきを得れば組合員は敢て其費を出すに吝ならざるべし吾輩は斯る不

當の徴集法は一日も早く廢止せんことを望む

之を要するに岡山縣蠶絲業組合の不振にして且つ無能力たるや素より理事者の不注意より玆に及びしは勿論なりと雖も強ち責を理事者にのみ歸す可からず組合員も亦其責を頒たざるを得ざるなり何となれば組合員は敢て組合の不都合を咎めずして又強いて之を匡正するの意思なきものゝ如く氣骨なき役員に放任して顧みざればなり然れども既往は詮なし此數年間は夢と過ぎぬ本年は實に舊年の迷夢を破りて一大革新をなし蠶絲業組合をして基礎を鞏固ならしめ以て眞正なる組合の利益を悟らしめ一方には蠶絲業の改良進歩を計り備作の蠶業をして益ゝ隆盛に赴かしめよ蠶絲業組合の無能力は實に斯業の發達上一大障害物たれば宜しく速に匡正する所なかる可からず吾輩一片の熱情禁ず可からざるものあり乃ち不文を省みず此稿を草し聊か警醒の資となす

◎蛆害驅除方法新案

京都府山城國乙訓郡東師村字志水　柳原松之助

編者曰く柳原氏は圓形蔟小屋の發明者にして蠶業には最も熱心なる人のよし

蠶絲は本邦富源の一大要素にして官民協力之れが奬勵に勉むる玆に年あり爲めに近時蠶業大に進み蠶種掃立の數既に三百〇九萬一千二百二十二枚の多きに至ると雖も其產額は未だ以て十分なりとするに足らず今明治二十七年の收繭額を見るに

蠶種掃立枚數	繭の產額	蠶種一枚よりの收繭
三百〇九萬一千二百二十二枚	百八十萬〇〇五百九十六石	五斗八升二合四勺五

右の如く蠶種掃立の割合に繭產額の尠き主なる原因は蓋し蠶病及び蛆害にあり今其病蛆の爲めに起る損害を見積れば左の如し

明治二十七年掃立蠶種に對する蛆害

全上に對する病害	合計
百廿九萬〇六百三十九石七斗四升六合	七十七萬二千七百石五斗五升

斯くの如く合計繭百二十九萬〇六百三十九石七斗四升の損害は是皆蠶兒の發生より上簇に至る迄即ち蠶兒飼育中に於ける損害なりと雖も今更に上簇後殺蛹の時期を失するが爲めに受くる蛆害を繭一升に付き十粒づゝとして明治二十七年の產額に對照し積算すれば左の如し

明治二十七年の產額	全上に對する蛆害	繭一升に對する蛆害見積
百八十萬〇五百九十六石	六萬〇〇十九石八斗二升	十粒づゝ

此毀損繭六萬十九石八斗二升は當業者中繭賣買の際自家の私利を計り殺蛹の時期を誤る爲めに受くる直接の損害なりとす而して其害は又繭の解舒に及び間接に受くる損害尠なからず今普通上繭一升より絲量十匁を得るものと假定し最近五ヶ年の產額繭平均一升の絲量は八匁八分なるを以て之れと比較し明治二十七年產額の內上繭に基き積算せば左の如し

明治二十七年產額の內上繭	全上に對する毀損繭の絲量	上繭一升に對する損害の絲量
百三十九萬〇三百七石	十六萬六千八百三十六貫八百四十匁	一匁二分

殺蛹の時期其宜しきを得ざれば間接に生絲十六萬六千八百三十六貫八百四十匁の損失あり是を以て上簇後に係る直接の蛆害と蠶兒飼育中の蛆害とに加算すれば左の如し

飼育中蛆害の爲めに生ぜし損失繭見積	全上に對する絲量	全上生絲の價額
七十七萬二千七百石五斗五升	七十七萬二千七百貫五百五十匁	三千四百七十七萬二千五百三十四圓七十五錢

上簇後に於ける蛆害直接の損失	全上に對する絲量	全上生絲の價額
六萬〇〇十九石八斗二升	六萬〇〇十九貫八百二十匁	二百七十萬〇八百九十一圓九十錢

一、殺蛹の適節を誤る爲めに受くる間接の損害見積生絲	十六萬六千八百三十六貫八百四十匁	七百五十萬七千六百五十七圓八十錢
合計八十三萬二千七百二十貫三百七十匁	八十三萬二千七百二十貫三百七十匁	四千四百九十八萬八十二圓四十三錢

右の合計金四千四百九十八萬〇〇八十二圓四十二錢の巨額は本邦同業者が國產の貴重なることを思はず唯繭賣買の際些少の利を爭ふが爲めに被る損害なりとす故に自今各〻奮發し一致團結して以て左の蛆害驅除法を確守せんことを望む庶幾くは蛆害を免るゝことを得ん

試みに明治二十七年絲類輸出の金高四千二百五十六萬三千八百七十六圓に右損害生絲の代價を加算すれば實に八千七百五十四萬三千九百五十八圓四十三錢の巨額に達す彌〻以て本邦富源の唯一要素と稱するも敢て不可なかる可し

而して此利益は明治二十七年の揚立蠶種に基き積算したるものにして決して飼育蠶數を增加するにあらず又桑葉及び勞力を增加するにあらず唯蛆害驅除法を行ふに由りて獲得すべきものなりとす故に官民一致の結合を以て此に勉むるは實に目下の一大急務なりとす而して余の所謂蛆害驅除方法の新案と稱するものは左の如し

一、總て蠶兒を飼育するものは其製種業者たると否とを問はず上簇後八日或は九日目に必ず種繭を除くの外殘らず殺蛹すること

二、蠶種製造家は種繭を保存する棚の下部に砂を厚さ一寸五六分程敷き繭より發生して轉落する蛆を該砂の中に潛伏せしめて一頭たりとも他に散亂せざる樣十分に注意すること

三、而して潛伏したる蛆の蛹は砂と共に水中に投ずること

右の方法は之れを蠶絲業組合規則中に規定し全國に普及せしめて嚴重に施行せしむるに於ては容易に蛆害を驅除するを得べく其國家を益する蓋しこれより大なるものなかる可し

●統計

●三十年二月中生絲屑物類輸出數量元價及收稅統計

（大日本外國貿易月表に據る）

種目	數量	元價	收稅
生絲	五六五、九〇六斤	三、九七一、三八二・五四〇圓	一三三、六九五・三六五圓
熨斗絲	一〇一、四七一斤	八〇、七二〇・〇〇〇	二、三九七・二六一
屑絲	二四一、八一七斤	一五二、九七〇・五〇〇	一、七一三・八八三
眞綿	六斤	一三・〇〇〇	〇・三九四
屑眞綿	一〇、二〇〇斤	一、二二四・〇〇〇	六一・二〇〇
計	九一九、四〇〇斤	四、二〇六、三一〇・〇四〇	一三七、八六八・一〇三

●三十年二月中絹物類輸出數量及元價統計（全上）

種目	數量	元價
縮緬	一七反	二〇〇・〇〇〇圓
羽二重	四八、二六〇反	七六二、九七一・四六〇
他の諸絹布類	二、五〇八反	一、七一一・六五〇
絹綿布類	七四反	一六一・〇〇〇

絹布手巾	六九、三四五打	一九七、五九七・二五〇
絹製品類	五〇、八五九仏	二三、六八七・六三〇
計	六九、三四五打	一、〇〇一、七三四・九九〇

◉最近九箇月間生絲輸出調査表

昨二十九年七月一日より本年三月三十一日迄各商館より歐米へ輸出せし生絲は左の如し

一館名	米國へ	歐洲へ	合計	二館名	米國へ	歐洲へ	合計
三番	一、二八〇	六、三六	一、八三二	二十二番	八、八五	二、〇〇七	二、八九二
五十番	一三	三、三二一	三、三三五	二十一番	八〇八	—	八〇八
七十一番	八七	—	八七	五十番	—	—	—
中八十九番	三三	二九	七三	角八十九番	二七〇	—	二七〇
乙九十番	一、三八九	一、八八三	三、二七二	甲九十番	四、七九八	三、一〇五	七、九八三
九十五番	二七	二、五七一	二、六八八	九十三番	—	—	—
百六十四番	—	七三二	七三二	百六十三番	—	—	—
百七十七番	—	一三三	一三三	百六十八番	二、五〇一	九〇	二、五九一
百九十八番	九二	一、七四三	二、七三五	百七十九番	—	二四三	二四三
二百六番	—	一、七四七	一、七四七	二百九番	—	—	—
二百十六番	四〇五		四〇五	二百二十一番	—	六七九	一、八一二
生絲合名會社	三、七三三	五六六	四、三九九	三井物產合名會社	七三〇	三五七	七三〇
同伸條式會社	一、三一〇		一、三一〇	總計	二〇、三三三	一九、〇一四	五九、三四七

	廿九年度同日	◉比較	廿八年度同日	二九〇	二〇〇三
	二七、六一六	二〇〇〇一	四七、六七		四四、三三一

◉問答

◉蠶蛆に附き質問

大日本蠶絲會員　高橋清七

蠶兒の强弱に由り嚥下したる蛆卵の孵化力に差違ありや又孵化するも其發育に關係ありや若しありとせば其理由を明示せられたし

答　大日本蠶絲會技藝委員　農學士　河原次郎

蛆卵の孵化力は蠶兒の强弱に關係なしと雖も左の場合には其生育を遂げざるを常とす

蠶兒極めて虛弱なるか若くは他の病に罹りて生長すること能はざるとき

一頭の蠶兒に一時に多數の蛆を寄生せしめたるとき又は既に一頭の蛆を寄生せしめ稍と其生育したる後に寄生したるとき

即ち十分の滋養分なきときは蛆は發育すること能はざるなり

◉白殭病に就て問ふ

大日本蠶絲會員　田中幸次郎

白殭病にして蠶兒の四眠後即ち五齡期に多きは何如なる理なるか尙ほ白殭病の種子は數年を經過するも蠶兒に傳染するの力を有するや否や

答　大日本蠶絲會技藝委員　農學士　河原次郎

蠶兒一二齡中に此病毒の寄生を受けて白殭蠶となるも人目に觸れずして其まゝ放置せらるゝが故に他に傳染す而して三四齡頃に至れば蠶躰已に大に成長するを以て此寄生を受けてより躰外に白粉を生ずる迄には溫度の高低に因りても差あれども七日乃至十五日を費すを以て五齡に多く現はるゝなり又桑樹に自然に捿息する「クハコ」にも此病ありて其病毒飛散し桑葉に附着せるを知らずして家蠶に與ふることも亦三眠以後に多しとす其病菌の胞子は二箇年を過ぐれば傳染力を失ふを常とすれども濕氣多き處に在れば尙ほ之を有つと云ふ

●氣象の變化を前知する方法に就て質問

大日本蠶絲會員　菊地茂三郎

(一)雲の形態と色澤とに由りて氣候の變化を豫知すべき方法及其理由を詳細に說明せられんことを請ふ

(二)雷鳴、地震及東西南北各風の起る各種の前徵を問ふ且つ各氣象に如何なる變化を與ふるか

答　大日本蠶絲會技藝委員　農學士　月田藤三郎

(一)雲の形態と色澤とに由りて氣候の變化を豫知せんとするは頗る難事に屬し其方法の如き一々之れを玆に說明するは容易の事にあらず故に今は唯だ其一端を陳述すべし

雲は種々ありと雖も之れを分ちて四種となすを得べし白色にして羽毛の如き狀をなして晴天に現はれ其位置の極めて高きものは之れを晴雲と稱す此雲現はるゝときは屢〻天候の變ずることあれども曇天には之れを見ざるを常とす又た地平線上に起りて其狀恰も雪を以て蓋はれたる山岳の如く或は綿塊の堆積せられたるが如く見ゆるものは之れを積雲と稱し夏日には多く冬日には少なく常に晴天日出後暫くして現出して漸次增加し日沒後に至れば消失す此雲若し午後に至りて甚だしく增加し且つ其上層に晴雲あるときは風雨の至ることあり層雲と稱するは大氣の下層に水平に現出し廣く且つ長く連なるものにして春日よりも秋日に多く通常日沒に現はれ日出に消失す此雲地表に接近するときは霧を生ずるが故に空氣濕潤を覺ゆるも雨は之れを降らすに至らず又た雨雲と稱するは其形定まらず色闇黑にして地表に近接し雨を降らすものなり

雲の現はるゝは霧の生ずると其理同じく大氣中に含有する水蒸氣々溫の變化に遭ふて結縮し液躰に變じ若くは更に固躰に變ずるに由る者にして其形態色澤等は其位置氣溫地勢等に由りて一樣ならず

(二)雷鳴及地震は其原因は稍や明かなりと雖も其起る前徵及氣象學上に及ぼす變化の如きは未だ詳かならず而して風の起るは氣溫の變化より氣壓の高低を惹起し以て大氣をして流動せしむるに由るものにして其方向地勢の如何及高低氣壓部位の關係等に由りて一樣ならず又た方向を異にする風の氣象上に及ぼす影響は地方に由りて區々なるが故に之れを明答するを得ず

要するに本問の如き廣漠なるものに對して滿足なる說明をなさんとせば勢い氣象學の大半を講了せざる可からず故に質問者若し詳細を知らんと欲せば須らく一部の氣象學書を購讀すべし

●外報

◎佛國絹布產出及貿易景況

佛國絹布產出及貿易景況に關し里昂駐在帝國二等領事山田忠澄氏より本年一月二十二日附を以て外務省へ左の如く報告ありたり

里昂に於ける絹布產出高は明治二十八年に於て三億九千九百十五萬法卽ち大略四億法內綿絹布二億千四百八十萬法、交織絹布一億三千二百九十五法、其他の織布五千百四十萬法にして之を前年の產出高三億六千五百萬法に比すれば凡そ三千四百萬法を增加せり

本邦、支那及印度產出絹布の佛國へ輸入せらるゝものも亦決して少からざる金高にして二十八年に於ては千三百萬法强に達せり此輸入絹布が里昂の染業者、捺染業者又糊附整製業者各自の職業を幇助するとゝ亦少からざるなり今試に二十四年以來二十八年に至る四箇年間に極東諸國より佛國へ輸入したる絹布の總計を算するに實に六千五百萬法の價額に達したるを見る

明治二十八年に於ける絹布流行の餘響佛國絹布の輸出業は大に盛況を呈し同年佛國は列國絹布の貿易上主要の地位を占めたり卽ち同年佛國の絹布輸出高は三百三十九萬千二百三十七基此價額一億八千八百四十一萬九千七百四十七法に達し之を前年の輸出高二百七十一萬九百二十基此價額一億四千五百七十四萬八千五百九十七法に比すれば數量に於て二割五分、價額に於て二割九分の增加を見る」

右輸出高一億八千八百萬法の內一億三千九百萬法は英國及米國に供給せしものとす故に此兩國は佛國絹布總輸出高の七割四分を吸收するものと知られたり又前記二十七年に對する二十八年の輸出高增加額卽ち四千二百萬法の內三千七百萬法は英國及米國に對する輸出高の增加に屬するものなり

此數量に據れば英米二國の市場は佛國製絹業に取りて最重要の關係を有することを知るべし小幅絹布の製造も亦玆に特記するの價値あるものなり二十八年に於て該品の製造は甚だ盛なりき佛國に於て小幅織布製造に最も盛なるはサンテチエンヌ市なるが今同市製絹業者組合の報告に基き同市商業會議所の編製したる統計を案ずるに明治二十七年に於ける產出高七千百十三萬二千五百法にして二十八年に於ては九千三百八十一萬法に達し卽ち三割一分の增加を示したり今又前記組合の調査に據るに二十八年の右產出高九千三百八十一萬法の內佛國內地の消費高五千八百八十六萬六千五百法にして外國への輸出高三千四百九十四萬三千五百法なり佛國稅關輸出統計表に據れば同年小幅織布の輸出高は凡そ二千七百萬法とあれども實際に於ては此外小包郵便にて輸出したる小幅物衣裳の裝飾等に供する分及其他加工品と爲りて輸出したる高の如き亦決して尠少ならざるを以て是等は宜しく前記の稅關統計に加算すべからざるものとす蓋し前記組合の計算は其據る所確固なるを以て最も實際に近きものとして信ずるに足るべし

二十八年に於ける小幅物織製業は特り佛國に於てのみ盛況を呈したるにあらず瑞、獨に於ける亦然り要するに同年は絹業一般に好況を呈せり卽ち當時の流行は到る處絹布及小幅絹布を用ひたるを以て各國共其產出に著しく增進を示せり而して東洋蠶絲の供給莫大なりしかば原料絲の需要常に增加の傾向ありしに拘らず市價低廉にして大に斯業の盛運に聲援を與へたり從て絹布の消費も亦大に增加し製繭家は原料の廉價なるに從ひ絹布の賣價を高むることなく相當の利潤を以て斯業を營むことを得たり

然りと雖も退て佛國製絹業の世界列國に對する地位如何を考ふるときは佛國は各方に數多且つ侮るべからざる競敵を有することは蔽ふべからざる事實なりとす而して佛國の製絹業は特有の長所として嗜好に意匠に技術の發明改良に富めりと雖も全世界市場に供したる絹布貿易高總躰の增加に隨伴して其製產高を增殖するに至らざるものゝ如し

◎世界蠶業の狀勢

一昨二十八年中全世界蠶業の狀勢に關し里昂駐在帝國二等領事山田忠澄氏より本年一月十六日附を以て外務省へ左の如く報告ありたり

佛國稅關輸出入價額調査委員の調査報告に基き明治二十八年中全世界諸國蠶業の概況を敍せんに世

界に於ける蠶絲及絹布製産額の夥多なりしは同年の蠶業上特記すべき事實にして該品の製造及賣買とも盛況を示すと共に比較的滿足なる價格を保ちたり

全世界に於ける蠶絲の實際産出高を知らんと欲せば單に歐米の製造に供したる分量の計算のみに止らずして日本、支那、印度等極東諸國に於ける蠶絲の産額を加へざるべからず然るに此等極東諸國に於ける蠶絲製産額の一部分は羽二重、絹紬類の絹布と爲り産地より輸出して世界の貿易市場に上りしことは疑なしと雖も右蠶絲産出額の大部分は内地の消費に供すべきものなれば極東諸國に於ける蠶絲の製産額は實際調査するに由なきを以て前記調査委員は著く之を除外し通商の煖介に依りて歐洲、小亞細亞、米國、北部阿非利加及英領印度の製造に供したる蠶絲を統計して大體の觀察を爲すこととせり而して此統計を得るには歐洲及小亞細亞に於ける養蠶諸國の産出高に極東諸國即ち日本、支那及印度の輸出高を加算するの缺くべからざるを見るべし

右計算の結果即ち明治二十八年中に於て世界の製絹業に供したる蠶絲の概算高左の如し

歐洲及小亞細亞の産出高

佛蘭西	七八〇、〇〇〇	サロニク、アンドリノープル	一八〇、〇〇〇
伊太利	三、二〇八、〇〇〇	伯爾加里及東部ルーメリー	三五、〇〇〇
西班牙	一〇〇、〇〇〇	希臘	三五、〇〇〇
澳地利匈牙利	二八〇、〇〇〇	西里亞	三七〇、〇〇〇
アナトリー、ルース	三〇〇、〇〇〇		
極東諸國の輸出高			
支那上海	四、四三五、〇〇〇	英領印度	三五〇、〇〇〇
支那廣東	一、七〇〇、〇〇〇		

高加索	一七五、〇〇〇
波斯、達爾給斯丹（輸出高）	二〇〇、〇〇〇
小計	五、六六三、〇〇〇
産出及輸出總計	一六、〇二三、〇〇〇

日本　三、八七五、〇〇〇　小計　一〇、三六〇、〇〇〇

右の計數を其前年即ち二十七年分に比すれば歐洲及小亞細亞に於ける蠶絲産出高は百分の四の減少なるも極東諸國の輸出高は三割二分の增加なるを知らん

今試に二十五年より二十七年に至る三年間に於て前記の如く世界製絹業に供したる蠶絲の數量を總括計算すれば各蠶業國が供給したる百分比例左の如し

支那	三六・七六	日本	二一・五〇	英領印度	一・七〇
伊太利、西班牙及澳地利匈牙利	二六・二七	ルタン及高加索	八・一七	計	一〇〇・〇〇
		佛蘭西	五・六〇		

世界製絹業に供したる蠶絲の數量は既往十年間に於て千七十萬基より千六百萬基に達し即ち大略五割の增進を示したるを見れば其生産增加の速度甚盛なるを證するに足る

此著しき增進は殆ど全然極東諸國より來るものなり而して歐洲及小亞細亞に於ては甚だ幼微なる速度を以て增進を示せり乃ち明治二十一年には五百四十八萬基なりしが二十八年に於て五百六十六萬三千基に達したるに過ぎず然るに同二十七年間に於て極東諸國の蠶絲輸出高は正に一倍の增進を示せり即ち二十一年に於ては五百十八萬基なりしが二十八年に至りては實に千三十六萬基に達せり

是に由りて之を觀れば世界蠶絲産出の增進は日本支那及印度に於ける蠶業の發達に歸依するものと謂はざるべからず特に日本に於ては其進歩著しく即ち二十年前に於ては歐洲製絹業のため七十五萬基を輸出したるに過ぎざりしが二十八年に至りては實に三百八十七萬五千基を輸出するの勢に達せり

前文に記したる如く二十八年中製絹業に供せし蠶絲は千六百萬基以上（實際の數量千六百二萬三千基）に上りしが此數量は實に未曾有の最大額にして既往數年の平均を超過せり即ち前三ヶ年間の平

均千五百萬基、明治二十四、二十五兩年の平均千二百八十萬基、二十一、二十三兩年の平均千百七十五萬五千基、十九、二十一兩年の平均千七十一萬基なりとす此平均量の比較に依り蠶絲産出高增進の程度を推知するに足るべし

以上は全世界蠶絲の需給を概括して論じたるものなり尙ほ佛蘭西一國に就き二十八年中の蠶絲貿易及製絹業の狀況を述べん即ち左の如し

貿易上の統計に基き蠶種の出入を考査計算するときは（甲外國より乙外國に輸送するため單に佛國を經過するに止り佛國の市場に上らざるものは之を除く）明治二十八年中佛國市場に供したる蠶絲は七百十四萬八千四百三基なりとす內外國より輸入せし分六百三十六萬八千四百三基、佛國の產出に係る分七十八萬基なり既往數年間佛國市場に供したる蠶絲量を調査するに二十五年に於て六百六十九萬千九百八十一基、二十六年に於て六百三十八萬四千六百七基、二十七年に於て六百三十四萬五千八百六十五基なり此數量を比較するときは二十八年は二十七年に對し凡そ一割三分の增進を示す而して同年に於ける全世界の蠶絲產出高は大凡千六百二萬三千基なるを以て佛國市場に供したる量は其四割四分五厘八毛に當るを見るべし右數量の內三百六十四萬二千百二十七基は實際佛國に留り內地製絹業の使用に供したるものにして其他は再輸出に係るものとす

今茲に同年世界萬國に於て製絹業の使用に供したる蠶絲の數量を調査するに其結果左の如し

佛蘭西	三、六四二、〇〇〇基	澳地利	六五〇、〇〇〇基	印度、ルワン、北部阿非利加及其他諸國
北米合衆國	四、二六一、〇〇〇	西班牙	一、六〇、〇〇〇	一、一七五、〇〇〇基
獨逸	二、五五五、〇〇〇	伊太利	五三〇、〇〇〇	
瑞西	一、六五九、〇〇〇			
英吉利	八五五、〇〇〇	露西亞	一、〇〇〇、〇〇〇	合計　一六、四八七、〇〇〇

前表の如く佛國は同年に於ては世界第一の蠶絲消費國たる地位を失ひ而して此地位を占めたるは北米合衆國なり

貿易出入の統計に據り計算するときは同年佛國の製絹業に供給したる蠶絲量は前表の如くなるも佛國の市場に於ける前年より持越の絲量を計算するときは二十八年に於て實際消費したる絲量は四百十五萬基に達し二十七年に比し一割一分の增進なりとの說あり

今茲に二十八年中各國に於ける蠶絲檢査所にて取扱ひたる檢査高を調査するに即ち左の如し

佛蘭西	九、四二六、九五七基	獨逸	一、三三八、三四一基	計	二一、五二七、九九五基
伊太利	八、二四九、一四六	英吉利	三三、一三五		
瑞西	二、一九四、六一一	澳地利匈牙利	二八五、八〇五		

右諸國に於ける蠶絲檢査所の取扱高を比較するに佛國は實に第一位を占め伊國に勝ること千二百萬基なるを見るとは雖も列國蠶絲貿易の趨勢を觀察するに蠶絲貿易上佛國の地位は近來進步中止の姿を呈し他國競爭に當り難きに至れりとの說あり夫れ或は然らん

千八百六十五年以前は蠶絲の商權一に英國倫敦市場の專有に歸し當時佛國製絹家は東洋蠶絲の供給を惡く倫敦に仰げり然るに蘇士運河の開鑿、佛國「メッサヅリー、マリチーム」郵船航路の開通及佛國商人獨佛の結果として東洋蠶絲の中心市場は徐々に倫敦より里昂に移り里昂は爾來東洋諸國及伊太利蠶絲の中心市場と爲り大に其繁榮を致せり

然るに今日に於ては此繁榮を永く維持し得べきや否を疑ふべき事情の存するあり他なし近時交通貿易の發達は蠶絲貿易をして往時の如く獨り佛國專有の商業たるに止ることを許さずして漸く世界的の商業たるに至らしめんとするの傾向あるに由る即ち今日に於ては蠶絲輸入業者に佛蘭西、英吉利、瑞西、伊太利、獨逸の商人あるに至り且つサツ、ゴタール隧道の開通は彼の蘇士運河の開通が佛國に

與へたる利益の一部分を減殺するに至りたる事實あり加ふるに歐洲絹業國の一なる瑞西は直接に伊太利と相交鄰するを以て往時里昂に供給を仰ぎたる其需要蠶絲の大部分を今日に於ては伊國ミランに仰ぐに至り又サン、ゴタール開通の結果として開始せられたる獨逸東洋郵船航路は直接に東洋蠶絲をセーンヌよりミランに輸入するの便を與ふるに至れり是等の事業は一として里昂の繁榮を殺ぐの性質ならざるはなし

特に里昂市の蠶絲檢査高とミラン市の檢査高との比較上の差違は前件を證明するの一事なりとす即ち二十八年中里昂の檢査高は六百八十二萬五千五百四十六基にしてミラン市の分は六百九十一万五千九百六十五基なり今試に明治十九年より二十年に至る一箇年間に於ける檢査高を按するに當時ミラン市は里昂市に及ばざること實に百萬基以上なり事實斯の如くなれば毎一市に就きて比較するときはミランが里昂に代りて蠶絲商業上第一位を占むるに至りしは疑を容れざる所なり

前記獨逸東洋郵船航路並にサン、ゴタール隧道の開通の賜として伊國は漸く佛國の蠶絲貿易を奪ひ從來馬耳塞より里昂を經由せし該商品の大部分を直接にミラン市場に吸收するに至りしは今や世人の毫も爭ふべからざる事實として認むる所なり

● 雜報

◎大日本蠶絲會第六回大集會

大日本蠶絲會第六回大集會は豫期の如く三月二十八日を以て赤阪區溜池町の大日本農會々堂に於て開設せり生憎連日の霖雨にて泥濘脛を沒するが如くなるにも拘はらず來會者は名譽會員子爵谷干城氏、同夫人、富田鐵之助氏を始め二百五十餘名にて午前十時に開會し幹事長岡殺氏開會の挨拶を爲し次に幹事松永伍作氏例に依りて二十九年度に於ける會務の要領及び計の顚末を報告し夫より會員諸氏數番の演說ありて正午に至り來會者に午餐を供し午後第一時再び開會招待員の演說に移り三時少憩茶菓を呈し引續き演說ありて五時に至り閉會更に定期會議を開き幹事長より評議員滿期退任者の氏名を報告して改選に取かゝりたるに改選者は幹事長に一任すべしとの事に決して當日は散會せり時に五時三十分なりき

因に曰く永島禮七氏は渡良瀨川沿岸鑛毒被害地の桑樹を始め枯凋慘憺たる各種の植物を會場内の一隅に陳列して縱覽に供し以て觀者の注目を惹き又關根太左衛門氏は自作の簇速製器を携帶し會員を

當日の演說は左の如し　（氏名演說順序）

給桑の手續	群馬縣	境野清衛	
簇の速製に就て	東京	關根太左衛門	
蠶業全局の改良及普及	京都府	山本竹藏	
腹地の蔟種と寒地の蠶種	長野縣	田中良太郎	
霜害豫防法に就て	東京	船津傳次平	
栃木縣下鑛毒被害地の蠶業	栃木縣	永島禮七	
日本蠶業改良意見（右通譯）	横濱名譽會員墺國	侯爵テンプリニー、ゴンザガ	今西直次郎

歐米機業と本邦製絲業　福井縣　村野文次郎

二十七年の沿革より今日に至る横濱の絲況　横濱　檜本重兵衛

蠶絲貿易談　同　高木三郎

彼我蠶絲業の差異　東京　農學士　本多岩次郎

◎評議員半數改選　大日本蠶絲會評議員星野長太郎、本多岩次郎、小畑岩次郎、練木喜三、佐々木忠二郎、佐藤國太郎、木村九藏、下田伊左衛門、芝山直清、高木三郎、大島正義の十一氏は本會規則第五章第十八條に據り滿期退任となり其改選は前項に記載せる如く第六回定期會議に於て幹事長に一任する事に決したるを以て幹事長は石渡繁胤、星野長太郎、本多岩次郎、小畑岩次郎、大島正義、高木三郎、練木喜三、佐々木忠二郎、佐藤國太郎、下田伊左衛門、紫藤章の十一氏を指名選擧せり（新任者諸氏いろは順）

◎評議員會　大日本蠶絲會にては四月十日午後第一時より神田美土代町二丁目一番地本會事務所に於て評議員會を開けり出席者は石渡繁胤、春名稼四郎、本多岩次郎、岡毅、高橋信貞、辻鶴太郎、練木喜三、松永伍作、兒玉實詮、足立元太郎、紫藤章、平野陟應の十二氏なり當日の議題は

一幹事長及幹事半數改選の件

一規則中改正の件

一特別會員選定の件

一第三回蠶種、繭、生絲品評會は十月二十九日より三十一日迄三日間開設するの件

にして上の二題は別項に記するが如く議決し下の二題も全會一致を以て可決し午後第五時散會せり

◎幹事長及幹事の當選者　幹事長岡毅氏及幹事松永伍作氏は各滿期退任又是迄幹事は三名なりしを次項規則中の改正に記するが如く更に一名を增員して四名と爲したるに付き其選擧を行ひたるに幹事長には岡毅氏幹事には紫藤章、本多岩次郎の二氏孰も得票多數にて當選せられたり

◎大日本蠶絲會規則中の改正　規則第三章第九條中幹事「三名」とある を「四名」と改正し又第九章第三十二條本會は支會を補助する爲其加盟者より取集めたる「會費額の二割を支給するものとすとある」下の十八字を「會費の幾分を支給す其方法は別に定むる所に據る」と改正せり

◎大日本蠶絲支會補助方法　前項に記する如く規則第三十二條を改正せしに付き評議員會に於て議定したる支會補助方法は左の如くにして當三十年度より施行す

大日本蠶絲會支會補助方法

一、翌年度の會費を前年の十二月三十一日までに本會に送付したる分は集金額の三割を支給す

二、其年度の會費を其年の六月三十日までに本會に送付したる分は集金額の二割を支給す

三、其年度の會費を其年の十二月三十一日までに本會に送付したる分は集金額の一割を支給す

四、前年度の會費を翌年に取集めたる分は支給せず

◎大日本蠶絲會品評會規則中の改正　同規則第三章第十三條中「一等盃」を「一等賞、賞杯」「二等、全」を「二等賞、同」「三等、賞狀」を「三等賞、賞品」と改正し更に「四等賞、褒狀」を增加し又第十五條審査委員は每品其審査表を製し褒賞の等級を「擬按」して審査委員長に出し審査委員長は「本

會幹事長と協議して褒賞の等級を定むるものとす」とあるを審査委員は每品其審査表を製し褒賞の等級を「擬」して審査委員長に出し審査委員長は「其當否を審按して幹事長の決行を請ふものとす」と改正せり

◎パストール博士の銅像　本會卷首に收藏するものは佛國ァーレィ市の公園に建設する所の故パストール博士の銅像にして大日本蠶絲會員農學士本多岩次郎氏が昨二十九年農商務省の命を奉じて歐米の蠶絲業を巡視の途次現場に臨みて撮影されしものに係る該銅像建設式に關しては大日本蠶絲會は特に電報を發して其盛典を覗したる（會報第五拾號參看）縁故もめれば本多氏に其寄贈を請ひ之を複寫して遍く會員諸君に紹介することゝなしぬ

◎山形支會設立　山形縣下の蠶絲業有志家が合同して大日本蠶絲會山形支會設立の企てあることは已に會報第五拾四號の雜報欄内に記載せるが爾來發起人諸氏の熱心なる盡力にて諸般の準備全く整頓したるを以て發起人總代十名の連署にて此程設立認可の儀を本會に申請せるに由り本月二日之を認可せり該申請書及其認可は左の如し

申請書

本會則第九章第二十七條に依り山形支會を設立致度候間御認可相成度別紙會員名簿相副へ此段申請致也

明治三十年三月二十一日

大日本蠶絲會山形支會創立發起人總代

石山學太郎印
松田宗兵衛印
佐藤義晴印
壷石大助印
平澤彌五郎印
高橋角藏印
芦野泰治印
吉見治兵衛印
中村豐明印
三條吉之助印

大日本蠶絲會幹事長岡毅殿

（認可）

明治三十年三月二十一日附申請大日本蠶絲會山形支會設立の件認可す

但支會規則決定役員選擧の上は屆出べし

明治三十年四月二日　大日本蠶絲會印

◎桑樹霜害豫防注意　蠶業講習所にては桑樹の被害中最も恐るべき霜の豫防法に附き注意の要點を調査して各地方へ頒布せらる即ち左の如し

桑樹被害の起因は一にして足らずと雖も就中最も恐るべきは霜害にして常に突如の間に起り倏ち廣大の區域を侵すが故に其影響する所彼の病蟲害の比にあらず而して之が豫防の方法を應用して未然

に救濟の策を施すの肝要なるは一般に認識する所なりと雖も其方法を惣り或は實施を忘り爲に莫大の損失を來すこと往々にして之あるは遺憾に堪へざるを以て玆に防霜に關する注意の要點を收約掲載し以て參考に資せん

防霜の方法　防霜の法に數種あり就中其效果の顯著にして廣大なる區域に應用し得べきは薫煙法に若くものなし其方法即ち左の如し

豫め松杉類の生葉、藁、籾殻、鋸屑等の如き燃料を貯藏し降霜の兆あるを豫察し桑園の内外處々に之を配置し點火薫煙し園上に濃煙を靄かしめ以て熱の發散を防ぎ且つ旭日の光線を遮るに在り但し薫煙の際は時々其燃料に水を注ぎ發煙と共に成るべく多量の水蒸氣を發散せしむべく尚ほ薫煙を停止すること早きに失せざらんことを要す

防霜法の實行　此方は各ゝ其地形部落若くは區域の廣狹に依り適宜組合を設け豫め規約を協定し必ず一致協力して實行するを要す縱令之を實行するも區々點々なるときは奏效を期し難し

晩霜季節　晩霜の來るや豫め之を期すること容易ならず例へば明治二十六年の大霜後僅に三年を經て復び二十九年の大霜を見たるが如し加之其季節も亦年に依りて早晩あり故に此害を豫防せんには毎年晩霜の季節に至らば常に之に對する準備を爲すこと最も肝要なりとす今參考のため中央氣象臺の調査に係る本土及北海道に於ける晩霜季節を掲ぐれば左の如し

測候所	平均晩霜月日	最晩降霜月日
札幌山	四月一日	二十年四月二十四日

測候所	平均晩霜月日	最晩降霜月日
山口	四月二十二日	二十九年五月八日

鹿島	四月六日	二十六年五月五日
奥	三月二十八日	二十八年三月三十一日
岡山	四月十八日	二十九年五月八日
大坂	四月七日	二十年四月二十五日
京都	四月二十六日	二十八年三月三十一日
濱松	三月六日	二十年三月三十一日
甲府	四月十四日	二十八年四月二十六日
赤間關	三月三十一日	十六年四月十二日
濱田	四月十一日	二十七年三月二日
境	四月二十日	二十九年五月八日
彦根	四月二日	二十八年四月十六日
岐阜	四月二十四日	二十九年五月二十七日
名古屋	四月十四日	二十九年五月八日
津	四月三日	二十八年四月十五日
福島	四月二十九日	二十八年五月二十五日
石卷	四月十七日	二十三年五月十七日
沼津	三月二十四日	十六年四月八日
横須賀	三月十六日	二十九年三月二十五日
東京	四月五日	十一年四月二十四日
銚子	三月十日	二十九年四月三日

宇都宮	四月二十七日	二十九年五月八日
金澤	四月十三日	二十九年五月八日
伏木	四月十四日	二十七年五月二日
長野	五月七日	二十四年五月三十日
新潟	四月二日	十六年四月十七日
山形	五月二日	二十九年五月十四日
秋田	四月二十三日	十八年五月十五日
根室	五月十七日	二十二年六月十二日
宮古	四月三十日	二十年五月十八日
青森	五月四日	十八年五月十六日
函館	五月八日	十七年五月二十九日
函館	四月二十五日	二十一年五月六日
札幌	五月九日	二十二年五月三十一日
宗谷	四月二十九日	二十三年五月二十日
網走	五月四日	二十四年五月三十一日
十勝	五月二十四日	二十六年六月四日
上川	五月三十日	二十三年七月七日
釧路	五月二十五日	二十八年七月一日
網走	五月二十日	二十五年六月十七日

霜害豫防組合　此種の組合は本邦其例に乏しからずと雖も就中長野縣埴科郡屋代町霜害豫防組合は其創立最も古く効績亦著しきものあるが如し依て玆に其規約の要項を掲ぐれば左の如し

屋代町霜害豫防組合規約

（一）霜害豫防施行上便利のため組合を設け協議の上規約を定む但し決定の上所轄郡役所に屆出づべし（二）豫防實施の箇所は當町の内字道谷、上河原、加納坊、中島、代官源原、犬夕瀬、高畑、高夕原、德本、升の浦の十耕地とし多少を問はず其地内に於て耕作を爲す當町人は勿論他町村の者と雖も總て組合員とす

選擧及組織　（三）霜害豫防に關する事務取扱のため該事務所を町内便宜の場所に設置す（四）組合に通信委員兼指揮者若干人を置き組合總會に於て選擧す（五）組合に豫防長兼會計係正副二人を置く（六）組合に通信委員長四人を置く但し（四）（五）（六）に掲ぐる委員は三箇年を以て任期とし總て無給とす（七）（五）（六）に掲ぐる委員長は通信委員の總會に於て互選し二人以上の同點者あるときは年長を取り若し同年なるときは抽籤法に依る

職務規定　（八）豫防長兼會計係は豫防に關する事務を統轄し及經費の出納を掌る（九）豫防長兼會計係は毎年委員會に豫算案を起草提出すべし（十）通信委員長は豫防長を補佐し共に十分の盡力を爲すべし（十一）通信委員は霜害豫防に關することは大小を論ぜず盡力を爲し臨時の事件は總て兩長と協議處分すべし（十二）通信委員は桑樹發芽の頃に至れば各自受持組合員に禁料品の運搬を爲さしむべし但し再三運搬を促すも應ぜざる者あれば委員會に於て處分すべし（十三）桑樹發芽前に至れば桑園中適宜の場所を撰定し假出張事務所を設け委員若干人毎夜交替に凡そ三十日間宿直を爲し寒暖計を審査し華氏四十度より降りたる時は事務所に報道すべし（十四）豫防長は出張事務所の急報に接したるときは直に各委員に急報すべし（十五）通信委員に於て豫防長より急報を得たるときは直に事務所に出頭し協議の上降霜ありと認めたるときは警鐘を鳴らし組合員に知らしむべし（十六）豫防法實施に際し便利のため耕地圖面を調製し番號段別氏名を記載したる諸帳簿を新調して事務所に備へ置くものとす（十七）畑一段歩に附き凡そ一箇所の割合にて焚煙し其禁料は一回分松葉二束、籾殼一俵を用ふ或は相當の代用品を用ふるも妨なし（十八）各自の所有又は小作に論なく耕作人の段別に依り二回分焚燒の準備を爲すべし但し他町村より來り耕作を爲す者は當町代納人又は右關係者にて假に擔任し直に準備を爲さしむべし（十九）（十七）に掲ぐる準備に差支を生じたるときは通信委員に相當の代價を納め依賴するものとす（二十）豫防法實行便利のため凡そ四段歩を以て鄰地小組合とし其組合より一人の禁火擔任者を定め其氏名を事務所に屆出づべし（二十一）鄰地申合せ地割を爲し禁火を爲すべき箇所に當るも耕作人に於て苦情は勿論彼是の口實を設けて拒むことを得ず（二十二）各委員に於て警鐘を聞くときは夫々不來者なきやう盡力し現場に至りたるときは努めて周旋指揮を爲すべし（二十三）降霜ありと認むる場合に警鐘を聞くときは各組合員は受持場所に驅附け夫々禁火の用意を爲し二號の警鐘を待ちて直に禁火すべし但し一號の警鐘にて用意を爲すも二號の警鐘を鳴らさゝるときは降霜なきものと爲し通信委員の指揮に依り退場すべし（二十四）事務所に要する費用は義捐金を以て之に充つ（二十五）組合員は（十二）但書に掲ぐる處分に對し決して苦情を唱ふることを得ず（二十六）組合員に於て本規約は如何なる場合と雖も之を遵守し背戻すべからず若し違約者あるときは官廳の保護を受け以て豫防の周到を圖るべし依て茲に規約を結び各自調印するものとす

◎生絲檢査所官制中改正　明治二十八年勅令第九十三號生絲檢査所官制第六條の各生絲檢査所を通じて專任技師五人專任技手七人專任書記七人を以て定員とすとある專任技師五人を七人に專任技手七人を十一人に改むる旨四月十日勅令第八十七號を以て公布せられたり

◎松永伍作氏の清國行　蠶業講習所技師松永伍作氏は四月十四日清國へ派遣を命ぜられたるに附き同二十七日出發の途に上れり歸朝は凡五六ヶ月の後に在る豫定なり氏が今回巡視の地方及調査すべき事項を聞くに左の如し

清國江蘇省、浙江省、福建省、廣東省、直隸省等に於ける

一、桑樹に關する事項　一、蠶種に關する事項　一、養蠶業の狀況　一、製絲業の狀況

一、繭生絲商業の狀況

◎飼育中に蠶室を移轉す　臺灣大稻埕河溝頭街に於て總督府殖産部の試育中に係る蠶兒は著るき好況にて最初準備したる桑樹にては迚も給桑に充たすべくも思はれざれば當局者は過日來臺北附近を捜索して桑樹を求めけるに擺接堡庄擺接山脈中に於て宛も培養を加へたる桑園の如く一面に繁茂せる好桑林を發見せるより試育蠶兒の一半を分ちて三月二十九日擺接堡に蠶室を移されたるが同假蠶室に充てたる家屋は昨春烏園の試製を爲したる場所にして茶籠を上せたる棚は蠶棚に代用し得べくして之に蠶箔を上せ頗る簡便なる蠶室と成すを得たり蠶室の移轉に就ては當局者は其運轉に苦慮すること甚しく運搬中に密閉して大氣の流通を絶ち又大氣或は光線を直射せしめしては發育上非常なる妨害を與ふべく移轉後蠶兒の狀況何如あらんかと案ぜしに當局者の綿密なる注意は毫も蠶兒に異狀を呈せずして鹿兒島種は三十日に盡く桑止めとなり眠中の模樣は極めて良好にして廣東種四化蠶は食欲甚だ盛んに農商務省蠶業講習所西ヶ原種は三十日盡く發生し一粒の廢卵なく最も好況なりといふ

◎蠶種家は販賣業に屬す　長野縣の蠶種家が營業稅法の實施に附き當局官衙と見解を異にし陳情書を差出したることは已に前號の紙上に記載せるが此程主務省より其筋に向つて蠶種は單に販賣するものと製造して販賣するものとを問はず總て販賣業として課稅すべき旨を通知せられたるよし

◎西遠支會の祝辭と答辭　西遠支會に於て三月十日に發會式を擧行したることは已に前號の紙上に記載せるが當日の祝辭及答辭を寄せられたれば左に之を掲ぐ

祝　辭

國家の隆替は其基因する所殖産の消長に在り故に身を殖産界に委する者は孜々營々として其發達を圖り以て國家の般富の任に膺らざるべからず蓋し殖産の途種々ありと雖も本邦に於て最も重要のものは蠶絲なり近來外國貿易の大に發達せしは實に蠶絲業の進歩著しきに因る夫れ然り蠶絲業の盛衰は國家經營上至大の關係を及ぼす者にして蠶絲は恒に我經濟社會を整理し支配し又融通を助くる大産物たりとす故に若し生絲貿易沈滯を來せば世上萬般の事業之が爲めに萎靡し國運の伸張期すべからざるに至るや必然なり是れ貴賤を論ぜず朝野を問はず萬口同音蠶絲業の改良振興すべきを唱道して止まざる所以なちんか斯の如く生絲貿易の消長は國家安危の係る所なるを以て之が改良振興を計りて貿易を發達せしむるは焦眉の急務と謂ふべし我西遠の當業者此に見るあり互に相誘掖して大日本蠶絲會へ加盟せられ本日を下し西遠支會發式會を擧げらる欣什何ぞ堪へん然れども凡そ事物は形

躰如何に具備すと雖も之を活動し其主意目的とする所を貫徹するに非ざれば到底無用の長物たるを免れず故に會員諸君よ諸君は本日盛典を開きたる精神を固守し一意專心敢て渝ることなれ余や不敏と雖も苟も本會員の末班に列するを以て驥尾に附して盡す所あらんとす此を以て祝辭に代ふ

明治三十年三月十日　大日本蠶絲會通常會員　松浦郁次

祝　辭

古語に言はゞや國富めば兵も亦强しと宜なる哉言や明治廿七八年の戰役に我軍大勝利を奏し國光を四海に發揚し諸强國と相對峙するを得たる是一に叡聖文武なる天皇陛下の御稜威と海陸軍人の忠勇とに由ると雖も亦以て國民が至誠實力を養成せし結果に由らずんばあらず夫れ今日我國輸出入の權衡を得る所以のものは偏に蠶絲業の力なり故に蠶絲業は國家實力を養成する根本にして斯業の盛衰消長は國家の命脈に大影響を及ぼす者たり然らば我國民たる者誰れか此業の改良進歩を企圖せずして可ならんや此に於て我西遠の有志者共同一致して大日本蠶絲會西遠支會なる者を開設して益々斯業の改良進歩を期せんとす洵に慶賀の至なり然りと雖も此會を輔佐し以て大に目的を達せしむるは有志の任なり諸君請ふ益々努力せられよ不肖今日此祝賀會に列することを得たるは實に無上の光榮とす因て聊蕪言を述べて祝辭とす

明治三十年三月十日　大日本蠶絲會通常會員　小野忠太郎

答　辭

蠶絲の業たるや最も重要にして之が盛衰は國家の命脈に關するを以て生れて本邦の民たる者は斯業の改良進歩を企圖せずして可ならんや然れども之を爲さんと欲せば必らずや先づ同業者の一致團結を計らずんば能はず幸なる哉現今蠶絲業の泰斗を以て目せらるゝ諸家蠶に率先して大日本蠶絲會なる者を設置せられ大に斯業の爲め盡す所あらんとするの擧あるや當地方の者之を聞知し競ふて入會を乞ひ其數百三十人の多きに達せり故に今回支會設立の認可を受け本日茲に發會を擧行するに方り蠶業講習所技師農學士本多岩次郎君及貴紳諸君の臨場を辱ふし賜ふに懇篤なる教示を以てせらる當支會員一同大に感奮し益々斯業の發達を企圖し其厚意を空ふせず以て大日本蠶絲會員の名に負かざらんことを期す聊か蕪言を述べて答辭とす

明治三十年三月十日　大日本蠶絲會西遠支會員惣代　袴田善五郎

◎支那種繭と日本種繭

近來支那種繭の評判は製絲家の間に漸く喧傳するに至れども其產地は支那內地に於て最も僻陬の處に在るを以て言語は通ぜず風習は異なりて其買入の方法極めて面倒なるが故に大製絲家に非ざるよりは之を購求すること能はず且つ其繭たる粒小く皮薄く外見甚だ揚らざるものから未だ之を試用するに及ばずして種々のケチを付くるに至り廣く需要せられざれども獨り玉繭は上海製絲家の各產地より買集めたる繭中より撰別けられて市場に出づれば其買易き所より轉輾して上州地方機業家の手に渡り之を用ふるに解舒至りて宜しく隨て類節少きより次第に其聲價を發せんとす玉繭にして已に然りとすれば先き〳〵支那繭の輸入は大に始まるべけれども今日の所は前隊の次第にて未だ其効能を熟知せざる製絲家多きに居れり因りて茲に山陰製絲會社が横濱生絲檢査所に差出せる支那種繭及日本種繭より繰製したる二種の生絲試驗表を揭げて當業者の參考に資せん

第一は先年西ヶ原蠶業試驗所に於て取寄せたる支那杭州種の信州倉吉農學校に分配せられしより復製せしものにして第二は本邦固有種の又昔第三は支那產の生繭より各絲製せし生絲なり檢査所の肉眼鑑定にては三種共に其色澤優等なりしも細かに之を比較すれば自ら左の優劣あるを見たりと

復　製　色澤佳良殆んど純白色にして中に多少の青味を帶び趣味殊に佳なり

又　昔　赤敢て前者に劣らざるも白色の色合稍劣るを覺ゆ

支那種　前二者に比すれば白色中多少茶味を帶び光澤稍劣るの感あり

而して其纖度強力等の成蹟は左表の如し試驗方法は再繰は見本三十を各五絲に分ち一分時間蹇の回轉數四十五回の速力を以て一齊に再繰して其一時間切數を調べ二時間の割合に記し纖度は絲線五百メートルをグラム衡にて量り四百七十六メートルに對するデニールに換算し強力と伸度とは絲線半メートルを以て檢査したる上伸度の百分率は一メートルに換算し類節は二百五十メートルを以て檢査の上平均を記するに當り五百メートルに割當てしものなりと

	廿回の平均纖度	十回の平均強力	同上伸度	伸度の百分率	類節	切粉平均
復製	一二一、七二	四八	一〇六	二一	三九	無
又昔	一二二、七三	四六	一一一	二二	八九	同
支那種	一三、四三	四五	一〇五	二一	四二	同

而して其練減率は從來の經驗に徴するも其結果小なるものにして殊に支那種の如きは極めて少く檢査所開始以來未だ嘗て見ざりし所なりと

	平均練減率
復製	一、七七八
又昔 同	一、七五八
支那種 同	一、五七八

右の中にて支那種は原料繭の貯藏法宜しきを得ざりし爲め色合に於て稍々損ずる所ありしものなりといふ是に由りて之を觀れば支那復製若くは支那種の日本種に優れるは一目瞭然たり

◎工女製絲家を訴ふ　信州諏訪の某製絲家は相應の資產を有して立派に營業せるにも拘はらず昨二十九年の終業に際し工女に賃金を仕拂はざりしとかにて此程十三名の工女打連れて賃金請求の訴訟を上諏訪區裁判所へ持出したるが此訴訟たるや決して十三名に止まるにあらずして唯試驗的口開きを爲したるものなれば其請求にして成立たんには更に百餘名の工女は打揃ふて出訴せんとて已に計畫中なり云ふ

◎手數料直上げの厲行　横濱蠶絲仲繼商組合に於ては曩に總會を開きて生絲及屑物の中繼口錢を從前より二割方引上げの決議を爲し其旨を各地方へ通知せしに碓井郡蠶絲組合よりは以前の通りに据置かれたしとの要求ありたるを以て仲繼商組合にては更に總會を開き種々協議したるも營業稅法も實施され且つ諸物價非常に騰貴せる今日なれば到底從前のまゝには据置くを得ずとの事にて其回答を爲したるが從前の手數料は生絲一俵一圓、屑物一俵二十五錢にして今回の直上げは生絲にて二十錢、屑物にて五錢なりとぞ

◎南安曇秋蠶種改良會　長野縣南安曇郡の重要物產たる秋蠶種は近年販路の擴張すると共に

其產額も大に增加するの時期に際したれば此際萬一組制濫造して目前の奇利を貪り需用者をして不幸を被らしむる如き事ありては地方の物產を沮害するの恐れあるを以て是等の弊を未然に豫防し力めて精良の蠶種を製造し益ゝ斯業の發達を計らしめんが爲め南安墨郡役所に於ては郡內の當業者を招集して右に關する注意を與へたる紀當業者中一の異議を挿むものなく孰も其主旨を贊して今般南安墨秋蠶改良會と稱する團體を組織し其第一着手として本年より凡そ四五年間廣く蠶種の分與を爲す事に決定し已に其規則書を公にせり

◎西ケ原の蠶桑　西ケ原蠶業講習所に於ける本年蠶桑の狀況を聞くに養蠶は例年なれば四月二十七八日頃掃立を爲す筈なれども本年は氣候寒冷勝ちなるが爲め三十日頃となるべし而して其作柄に就ては先づ今日迄の摸樣にては昨年の如く貯藏中に腐敗するなどの事なく規則的に進み居れば今後急激なる暖氣の來るにあらずんば相應に好結果を見るならんとの事なり又桑葉の發芽も是亦冷氣の爲め例年より六日間後れたれども其以來氣候は漸く本順に復したるを以て此溫度を保ち行かば格別の違ひはなかるべしといへり

◎小松宮御別邸の養蠶　小松宮殿下には豫て蠶業に深く心を用ひさせ玉ひ數年前より伊豆國三島の御別邸內に桑園を設け又蠶室を築き佐藤國太郎氏をして夫等の事を管理せしめられ已に昨年も養蠶を試みさせられたるが本年は尙ほ一層規模を盛大にして白綾種框製原種用二十八蛾付四十枚を掃立つる筈にて此程佐藤氏を招き敎師其他の雇入れ並に器具薪調等一切の事を委囑し玉へりとぞ

◎原紙は缺乏を告ぐべし　蠶卵原紙の原料たる楮の不足なることは實に非常にして是れ楮の不作なるにも由るべしと雖も其の主なる原因は近來製紙の混合物として歐洲より輸入する或る原料は楮に混合するの外三椏其他の物には混合すること能はざるより楮の需用甚だ多くなりたるが爲めなりと其說の眞僞は暫く措き現に長野縣下長瀨地方に於て要する所の楮は漸次減少して群馬縣下の輸入は昨今至りて少しされば本年の原紙製造高は今日の有樣より推せば數割の減額を見るべく又紙價も昨年よりは數割の騰貴を告ぐるに至るべしとて機敏なる紙商は已に買占を企つるものありといふ

◎孵化蠶卵の掃棄　愛媛縣下宇和島地方にては去る七日頃より蠶卵孵化を始めたる由なるが聞く所に據れば同地の養蠶業は尙ほ一週間早しとの見込にて其已に孵化したるものは掃棄てつゝありといふ

◎横濱生絲檢査所生絲檢査調　横濱生絲檢査所に於て三月八日より四月十日に至る間に檢査せる生絲は左の如し

請求月日	箇數	產地	生產者	檢査項目	請求人
三月八日	器械一箇	伊勢	宮本伊三郎	原量、正量、丹棉、繊度、節、強力、伸度	茂木
同	同	近江	近江製絲會社	繊度	同
同	二箇	同	同	原量、正量、丹棉、繊度、節、強力、伸度	上野喜左衛門
同 九日	同 一箇	薩摩	同	同	茂木
同	二箇	和泉	堺製絲株式會社	同	堺製絲會社原
請求月日	箇數	產地	生產者	檢査項目	請求人
同十一日	器械一括	信濃	小野社	丹棉、繊度、強力、伸度	居留地九十五番館
同	六括	同	蠶業社	同	同
同十五日	同十本	羽前	長井組	丹棉、繊度、節、強力、伸度	茂木
同十六日	同五本	上野	富岡製絲所	同	三井物產會社
同	同	近江	近江製絲會社	繊度	横濱蠶絲外
同	同	信濃	更級社	同	同

同十七日	器械一括	越後	柏崎製絲會社	再繰、機度、強力、伸度、類節、
同	同五本	美濃	新勝社	機度
同十八日	一箇	近江	塚本製絲場	原量、正量、再繰、機度、類節、強力、伸度、
同	五本	信濃	長姫社	機度
同廿二日	器械	信濃	長姫社	機度
同	二箇	羽前	松岡製絲會社	再繰、機度、強力、伸度、類節、
同	一箇	伊馬	田澤澄	機度
同	一括	武藏	和田製絲場	再繰、機度、強力、伸度、類節、
同廿三日	一箇	近江	塚本製絲所	同
同	大和	所	椿本製絲	同
同	十本	信濃	大工社	同
同	一箇	伊勢	丹羽太一郎	原量、正量、再繰、機度、類節、強力、伸度、減節、
同	五本	同	同	再繰、機度、強力、伸度、類節、
同	二箇	武藏	原製絲所	同
同廿四日	十本	信濃	帶信社	機度
同	五本	同	開明社	同
同	同	同	信濃製絲會社	再繰、機度、強力、伸度、
同	同	同	吉澤製絲社	同
同廿五日	一箇	紀伊	島村製絲場	再繰、機度、類節、強力、伸度、
同廿六日	同	和泉	堺製絲會社	同
同廿七日	二箇	近江	木ノ本製絲會社	茂木
同廿九日	二括	伊豫	飯尾熊太郎	再繰、機度、類節、強力、伸度、
同	一括	同	同	同
同	五本	信濃	更級社	機度
同	同	同	富國館	同
同	同	近江	山中製絲所	同
同	十本	近江	近江製絲會社	同
同	五本	信濃	龍上館	同
同	二括	武藏	原製絲所	同
同	十本	信濃	帶信社	機度
同	五本	同	開明社	同
同	同	同	信濃製絲會社	再繰、機度、強力、伸度、
同	同	同	吉澤製絲社	同
同廿五日	一箇	紀伊	島村製絲場	再繰、機度、類節、強力、伸度、
同廿六日	同	和泉	堺製絲會社	同
同廿七日	二箇	近江	木ノ本製絲會社	茂木
同廿九日	二括	伊豫	飯尾熊太郎	再繰、機度、類節、強力、伸度、
同	一括	同	同	同
同	五本	信濃	更級社	機度
同	同	同	富國館	同
同	同	近江	山中製絲所	同
同	十本	近江	近江製絲會社	同
同	五本	信濃	龍上館	同

同	同	信濃	英社	同
同	同	扶桑館	同	同
同	同	白兎社	同	同
同	同	明良館	同	同
同	同	長信社	同	同
同	同	三全社	同	同
同	一箇	尾張	尾張製絲會社	原量、正量、再繰、機度、類節、強力、伸度、
三月廿五日	同	同	神榮支店	同
同	同	同	居留地百二十四番館	同
四月二日	同	備前	同	同
同	五日	同	山田駒吉	同
同	一箇	甲斐	向陽館	同
同	同	同	茂木	同
同	同	大和	椿本製絲所	同
同	同	近江	佳友製絲場	同
同	五本	同	同	同
同	同	同	尾張名古屋製絲所	同
四月五日	同	甲斐	矢島組	同
同	七日	一括	尾張新美製絲所	茂木
同	九日	一箇	伊賀東海製絲會社	同
同	同	一括	伊勢多氣製絲場	同
同	十日	一箇	若狹早瀨製絲所	同

◎蠶絲業に關する歳出豫算

帝國議會の協贊を經たる明治三十年度歳入歳出總豫算は三月二十七日の官報に於て同月二十四日附を以て公布せられたり其の歳入總額貳億四千五拾九萬九千四百八拾貳圓六拾貳錢歳出總額貳億四千五拾萬五千九百貳拾六圓拾八錢七厘にして其の歳出中に就き蠶絲業に關するものを擧ぐれば左の如し

歳出經常部農商務省所管　第六款　第七款　蠶業講習所　生絲檢査所　金貳萬參千六百九拾六圓六拾錢　金參萬八千五百四拾九圓九錢四厘

歳出臨時部同上　第九款第一項　蠶業講習所新營費　金貳千四百圓

◎島根縣蠶絲業組合蠶業講習所開所式

上古神鉦を執らして民に稼穡を教へ玉ひたる大

神の鎮座地たるは八雲立つ出雲國の杵築町に設立せる島根縣蠶絲業組合蠶業講習所は本年三月廿日より開所せしが四月五日を以て其開所の式を擧行したり儀式の事に慣れたる大社の杵築なれば諸般の準備式場の飾付等は伸々に行屆きぬ偖當日の參列者は曾我部島根縣知事、出雲國造從四位千家尊紀、同從四位男爵北島齊孝、大社教管長千家尊愛の三氏水産調査所技師岸上理學博士、田中鹿足郡長、第五課長吉田技師、榊原農事試驗場技師其他縣屬、郵便電信局長、裁判所書記、警部、縣會議員、郡會議員、各町村長、各學校長、各實業團體代表者一般有志者及島根縣蠶絲業組合頭取安井好尚、同理事石原虎三郎講習所長西田諸香、教師柿沼平吉、助教師持田榮三郎の諸氏幷に生徒等無慮百八十餘名にして午後二時報鐘數點開式を報ずるや諸員着席し頓て安井頭取の式辭ありて次に曾我部知事の演說、千家北島兩國造、千家管長の祝詞、吉田榊原兩農學士、柿沼教師の演說持田助教師發企人總代の祝詞西田所長、生徒總代の答辭等にて全く式を終り次で祝宴會に移り酒間復た郵便電信局長藤間源左衛門、出雲農會參事廣瀨由太郎二氏の演說あり安井頭取は恭しく起て　兩陛下萬歲日本蠶業萬歲を大唱し一同之に和し十分の歡を盡して散會せしは點燈後なり又當日の儀式は最も嚴肅にして順序正しく實に近來に見ざるの盛況なりし今千家北島兩從四位千家管長の祝文を左に掲ぐ

謹んで惟みるに農桑は遠く神代に在りて我家の世々仕へ奉る大國主大神の大弱神鉏を執りて教へ給ひし所而して蠶見は天熊人が　天照大御神の勅命を以て保食の神の御許に至り親しく獲て大御神に奉り給ひし所なり天熊人は我家の元祖天穗日命の御子天夷鳥命の又の御名なり歷代　天皇の蠶桑の業を勸め給へる其旨詢に深しと謂ふべし今や我國生絲は輸出の巨擘たり然り而して外には支那の如き以太利の如き雌雄を貿易界裡に決せんと欲するの强敵あり故に其品質を精良にし一樣にし其數量を增多にし以て百戰百捷を期するは豈國民の最大義務ならずや夫れ生絲の品質を精良にし一樣にし生絲の數量を增多にするも否とは主として其原料たる蠶見飼育の巧拙如何に在り蠶見飼育は深奥なる學理と熟練なる技術とに依據せざるを得ず是に於て斯業に關する教育の必要なるを知るべし本縣の如き夙に斯業の進步發達するや隱然として重を持し殊に我杵築地方の如き將來に於て關西の本場たらんとするの望あり其教育の特に必要なるを知るべし回顧すれば去十八年故山田參議巡縣に際し大社參拜の折余は送りて松江に至る參議余に告げて曰く杵築の民俗たる怠慢優遊殆んど土地の衰微を顧みざるものゝ如し宜しく率先計畫以て教ふるに產業の道を以てすべしと余歸るや杵築町村に於ける中等以上の人數十名を大社の會所に輯集し傳ふるに參議の言を以てし且其如何なる產業を起すべきかを討議せしむ甲論乙駁殆んど其底止する所を知らざりしが終に蠶桑の業を起すべきに決す乃先づ中流以上の人に課するに若干の桑園を開くべきを以てす爾來十年餘の歲月を閱して此盛運に至りしと雖技術猶拙劣にして搬立の數量と成繭の石數と相比例せざるの甚しきものあり豈奮起せしむる所なかるべけんや當局者茲に見るあり島根縣蠶絲業組合蠶業講習所を設立し普く縣下各郡より生徒を募集し斯業に關する教育を施さんとす而して余は特に本所が本年斯業に由緣の深き我杵築の地に設立せられたるを喜ぶ幸にして所長の監督其宜しきを得教師の授業懇篤と生徒の切磋勉勵とにより本所の設立を階梯となし進で蠶業學校を組織し斯業に關する教育をして愈々高く且益々廣からしめ以て國家の洪益を謀り　大神の經國の神慮に副へ奉るの一日も速ならんことを希ふ本日の盛典に

際し聊か所思を陳べて祝辭となす

明治三十年四月五日　　從四位　千家尊紀

海外貿易の開くるや彼我航海の頻繁なる年一年より殷盛に赴き今日の文化富強共に長足の進歩を來したる者一に貿易の結果に起因せざるはなし而て我の物產を彼に輸出して國利を得るもの蠶絲を以て首冠となす今や我國蠶絲業の開進する都鄙貴賤の差別なく熱心其業に從事し恰も汲々措かざる者の如し嗚呼亦盛なる哉雖然只に其美事たることを知て其技術を究めず濫りに狂奔するが如きは勞功其撞衝を得ざる而已ならず甚しきは失敗を招き資本の水泡に歸する事往々之なしとせず故に當業者は各企圖する所あつて各地に蠶絲業組合を設け加ふるに官の保護を得て稍隆盛の域に進みたり抑も蠶業の事たる桑樹培養に飼育に各普通一定の法則ありと雖も地味の異動或は寒暖の變遷に因て結果の眞否を來すは道理上尤も睹易き所なり而かも地味の鑑別桑園の耕耘病蠶の檢査其他仔細の研究に至ては同業者其人に在ても堂に升て未だ其室に入らざるもの多かるべし果して然らば一村は一郡に及ぼし一郡は一國に及ぼし其利害得失は施て滿天下に及ぼすや必せり是れ當業諸君が夙に介意する所にして今回蠶業講習所を設置せらるゝ所以なり然れば本所は蠶業家の木鐸者を鎔造する所にして本所の盛大は各地同業の隆盛を企圖する初步なり階梯なり嗚呼講習生の諸子よ諸子は拮据勵精以て其術の蘊奧を究め他日卒業の曉には大は國家の富强を致し小は各蠶業家の改良を謀り以て益々本業の隆盛を期せよ茲に本日開所式の祝意を表すると共に諸子の將來に望むこと如斯

明治三十年四月五日　　從四位男爵　北島齊孝

學んで而して思はざれば則ち罔く思ふて而して學ばざれば則ち殆しと豈獨り仁義道德に於てのみ然らんや近來我縣下蠶絲業勃然として起り而して往々不意の失敗を招き可惜國家の利益をして水泡に歸せしむるものなきにあらず是れ學ばざるの罪なり是れ思はざるの罪なり今や島根縣蠶絲業組合蠶業講習所を我杵築の地に設立せられ一面には學術を講ぜしめ一面には經驗を積ましめ以て斯業に從ふ者をして罔き所なからしめんとす斯の如くにして年々歲々止まずんば斯業は愈益隆盛の域に進まん國家の爲めに誰か之を賀せざる者あらんや一編の蕪辭を以て開所の盛典を祝す

明治三十年四月五日　　大社教管長　千家尊愛

●青森縣の蠶業と藤戸竹綱氏

青森縣の蠶業は元來全國中にて最も幼稚にして其產額の寡少なるのみならず養蠶法の如きも舊慣に依るもの多く改良進步の途に向ふもの極めて稀なりき然るに本縣技手藤戸竹綱氏（大日本蠶絲會特別會員）が去る明治二十七年中就任以來斯業の普及改良に銳意盡力せられたるの効績は歷々として著明なり即ち二十八年中氏の計畫に係る養蠶模範所を同縣三戸郡五戸村蠶絲業組合に於て設立し傳習生を募集せしかば縣廳は氏に命じて其講師たらしめしに敎授の結果最も良好なりしを以て翌二十九年縣廳にて斯業を奬勵し普及を計る爲め模範所を增設し孰れも相應の結果を得しが特に五戸組合の模範所は他に勝ること數等なりとの評を得たり是れ實に藤戸氏が敎師たりしに由るものなり尙ほ本年も縣廳にて相當の補助をなし各地に模範所を設けて益々斯業を普及發達せしめんとの計畫中なり右の如く藤戸氏の効績顯著なるを以て此程五戸組合より銀盃に添へて左の感謝狀を贈れり（會員三浦吉郎氏報）

感謝狀

明治廿八九年間本組合養蠶模範所講師として其効勞偉大顯著なるを以て組合一同の微意を表する爲め銀盃壹個及贈呈候也

明治卅年三月十六日　　青森縣三戸郡五戸村蠶絲業組合

青森縣技手藤戸竹綱殿

◎高座郡農會の發會式　神奈川縣相模國高座郡の有志者は農桑事業の改良を企圖しつゝある折柄昨年郡長山田親良氏の新任ありて郡内農事の不振を慨嘆し種々奬勵せられたる結果として遂に郡農會の設立を見るに至り三月二十一日を以て郡内溝村實光寺に於て發會式を擧行せり其重なる來賓は横濱生絲檢査所技師足立元太郎氏西ヶ原蠶業講習所技手毛呂正容氏其他神奈川縣知事代理書記官等にして蠶業上に將た農事上に有益なる演說及談話ありて聽衆に非常の感動と刺戟とを與へられたり此日は連日の雨天續きにして午前十時頃迄は細雨霏々たりしが技師等の着せられたる頃には全く晴を放ちたりしかば遠近の老若男女我先きにと爭ふて蠶至し十一時頃には滿堂殆んど立錐の地なく聽衆無慮四百名に及び午後五時閉會を告げたり實に近來無比の盛會なりき（會員田邊爲一氏報）

◎宮城農學校蠶友會　宮城農學校養蠶撰科生沼田積、中山可也、三浦平右衛門、大塲忠四郎の諸氏首唱にて同窓學友の親密と本縣蠶絲業の改良發達を計らんとの旨趣にて昨廿九年八月一日蠶友會の創立式を施行せしに會するもの五十餘名にて頗る盛會なりしが本年は去る三月四日春季定期會を同校内に開きしに來會者は名譽員及正員を合して四十餘名にして午後一時開會壽木會長の開會の趣旨沼田、中山兩尊事の前期の成績及會計報告ありて議事に移りしに正員大塲忠四郎、長谷新兩氏提出の同會則第十二條の定期會を年二回開會とあるを春季一回になすの更正に決議す了りて名譽員井原校長、壽木、守屋兩教諭の講話正員沼田、三浦、長谷、堀口諸氏の演說ありて後ち壽木教諭提出の蠶座と竹箔との利害に付き討論を開きしに甲論乙駁結局竹箔の利あるに決し各自崎鄕の上は實地施用して擴張せんことを約したり夫れより茶話會に移り席上種々有益の談話等ありて散會せり因に記す此日井原校長より金壹圓壽木守屋兩教諭より金五拾錢づゝ寄附せられたり

◎宮城農學校養蠶撰科　宮城農學校に於ては去る二十八年度より各郡より撰拔して養蠶撰科を設置せしに逐年隆盛を來せる景況なるが本年の入學者は二十五名にして二月一日より授業を開始し目下學科及實習を孜々として勉勵中なるが三月十七日木下文部省學務局長親しく實視せられたり

（以上二件宮城農學校蠶友會より報）

◎川上實業補習學校　佐賀縣佐賀郡川上村に一昨年より設立せられたる實業補習學校は毎年生徒を募集し農科を教授せしが本年より別科養蠶傳習科を置き教師として大日本蠶絲會員福井縣人西村繁氏を招聘し四月一日より開始し六月三十日を以て終り其の傳習科目は桑樹栽培論、蠶躰解剖學、蠶躰生理學、蠶躰病理學、養蠶法、製絲法、實習科目は顯微鏡使用法、蠶躰解剖、養蠶、製種、蠶種檢査、繭及生絲檢査にして本年養蠶掃立期は四月廿日前にして蟻量三十匁位の豫定なり

◎松田大島須藤の三氏　曩に滋賀縣長濱に於ける滋賀簡易蠶業學校の教師に招聘されたる大日本蠶絲會員福岡縣人松田小吉氏は過般事故ありて辭任したるを以て其後任として同會員栃木縣人大

島金松氏を聘用し本月五日に赴任せり又同會員茨城縣人須藤龜吉氏は昨二十九年十一月以來愛知縣三河製絲練式會社に於て業務に從事せしが此程廣島縣養蠶傳習所教師に採用されたるを以て同會社を辭し本月十日出發せしに附き會社職任一同送別の宴を張り其行を壯にせるよし

◎西遠支會規則

大日本蠶絲會西遠支會に於ては支會規則を制定して本會に屆出でたり其全文は左の如し

◎第一章　名稱及位置◎第一條　當支會は本會に準じ大日本蠶絲會西遠支會と稱す◎第二條　當支會は本會の旨趣を遵守し汎く蠶絲業上の經驗知識を交換し蠶絲業の改良進歩を圖るにあり◎第三條　當支會の事務所は靜岡縣濱松町般治四十八番地に設置す◎第四條　當支會は定時集會を開き蠶絲業上の要項を談論し或は會報を製して會員に頒布す◎第二章　會員◎第五條　當支會々員は本會の會員を以て組織し其進退權限等は總て本會規則に據るものとす◎第三章　役員◎第六條　本會規則に基き役員を定むること左の如し　幹事長　一名　幹事　四名　書記　一名　但任期は二箇年とす◎第七條　幹事長は當會一切の事務を整理し兼て開會の節は會長たるべし　但し幹事長不在のときは幹事之が代理たるべし◎第八條　幹事は幹事長の指揮に依り當會の事務を分擔整理すべし◎第九條　幹事長及幹事は會員中より選擧し書記は幹事長の意見を以て之を定む◎第十條　書記は幹事長及幹事の命を受け當會の庶務に從事すべし◎第十一條　幹事長及幹事は無給とし書記は事務の繁閑により相當の報酬をなすものとす　但役員に於て特別に事務を囑託するか又は臨時出張等を爲すときは實費を給することあるべし◎第四章　評議員◎第十二條　當會に評議員十五名を置き會員中より選擧す　但任期は滿二箇年とす◎第十三條　評議員會は當會經費の豫算規則の改正等重要の事件を評決議定する爲め毎年集會の後に於て之を開き其他幹事長に於て必要と認むるか又は評議員三分の一以上の申立あるときは臨時に開會するものとす◎第十四條　評議員會は現員半數以上出席するにあらざれは議事を開くことを得ず　但招集二回に及ぶも尚ほ滿たざるときは此の限りにあらず◎第五章　地方委員◎第十五條　當支會に地方委員若干名を置く地方委員は評議員會に於て之を選定し幹事長より囑託するものとす　但任期は二箇年とす◎第十六條　地方委員は當會の事業を擴張し且つ地方會員の會費を取纏め當會に送附するものとす◎第十七條　地方委員に於て要する通信運搬料は其實費を支辨するものとす◎第六章　會報◎第十八條　會報は本會の會報を以て之に充つ但有益の通信論說と認むるときは幹事長之を詮評し本會に回送し其會報に掲載を請ふものとす◎第十九條　特に當會に限り必要と認むる通信論說等寄贈する者あるときは評議員會に諮り支會會報として發刊することあるべし◎第七章　集會◎第二十條　當支會は毎年三月大會を開き蠶絲業に關する事件を談話し及事務の要件を報告するものとす　但開會の日時及會場は豫て報告すべし◎第二十一條　役員及評議員は大集會に於て選擧す◎第八章　品評會　◎第二十二條　當支會は蠶絲業の振起改良を奬勵する爲め評議員會の決議を以て蠶繭及生絲等の品評會を開設するものとす　但品評會に關する規則は凡て本會の規則に據る◎第九章　雜件◎第二十三條　凡て物品金員等を當會に寄附するときは本會に報告し寄附者の姓名を帳簿に錄し永く之を保存するものとす◎第二十四條　會員中發明又は改良せし器具又は方法を當會に申出るときは之を審査し稗益と認むるときは更に本會の審査を請ふことあるべし◎第二十五條　當會の議事規則は町村會の例を適用す◎第二十六條　總て會員の文書は支會事務所に宛通信するものとす

◎西遠支會役員

大日本蠶絲會西遠支會にては三月十日の會議に於て支會規則第三章、第四章、第五章に據り幹事長、幹事及評議員、地方委員を選擧せしに幹事長に青沼沃氏幹事に青木彌七、小野忠太郎、岡部竹次郎、伊藤豐太郎の四氏評議員に山本庄次郎、池田三猪次、藤田廣太郎、後藤角平、

三輪新五郎、鈴木勝太郎、袴田善五郎、桂村治、菅沼耕造、佐藤彌七、結川龍重、大木久一郎、松浦郁次、和久田御重、渡瀬源一郎の十五氏地方委員に松井孫市、杉浦義太郎、高橋與一郎、佐原高次郎、鳥居友三郎、平山松太郎、白柳治、石原貞、高橋信次、畔崎久平、河村直次郎、岡本太吉、大石欽平、犬塚清四郎、新村歌三郎、大隅雛十郎、鈴木壽榮、鈴木源吉、佐藤儀作、三輪兼次郎、影山長平、生熊惣八、森鹿太郎、原田耕重、永井碩庭、伊藤團吉、倉田愛次郎、今泉保太郎、稻垣文太郎、今田清太郎、高林彌作の三十一氏孰も當選したる旨本會へ届出たり

◎伊達郡蠶種業者の運動　福島縣に於て將に發布せんとする蠶種檢査規則に對し伊達郡蠶種製造者多數の意見なりとて關係の重なる各町村長諸氏が本月六日縣廳へ具申したる理由を聞くに第十議會に於て速に兩院を通過し已に法律第十號を以て發布せられたる蠶種檢査法の如きは已製蠶種を顯微鏡を以て檢査するも甚だ不完全にして必要なきより之を行はざるとは衆議院に於て政府委員の説明に因り明かなり然らば從來已製蠶種を檢査したる府縣に於ても之が檢査を廢すべきの時機なりと信ずるに本縣は前年創業なるにも拘はらず已製蠶種を檢査するの法を設くるに至ては法律の精神に反するのみならず當業者をして商機を誤らしむるの具を作るものにして寧ろ斯業者の發達增進を防遏するは必然なり依て本縣は其方針を改め一歩を進め明年より實施すべき法律第十號蠶種檢査法に則り本年より實施せられんことを希望す然るときは完全の檢査にして當業者に於けるも商機を誤るの恐なし云々

◎藍綬褒章下賜　多年公同の事務に勤勉したる廉を以て三月五日賞勳局に於て藍綬褒章を下賜せし者左の如し

福井縣越前國今立郡新橫江村長　三田村八高

資性溫厚夙に鄉黨の望を得警て戶長な勤め町村制實施の際村長に擧げられ任滿ちて再び撰選し能く地方制度の主旨を體認し專ら自治の發達を圖り學校の設備道路の改修農桑の振作惡疫の豫防等に盡力し政整ひ業和す公同の事務に勤勉すること多年其勞効顯著なりとす仍て明治十四年十二月七日勅定の藍綬褒章を賜ひ其善行を表彰す

●特別廣告

◎會員諸件　左の諸氏は三月より四月に渉りて入會若くは變更せられたり

●入會

○通常會員

東京　山川靖一　北島桂八　小林武之助　淺見和助　小山孫一郎　志茂元明　神藏喜六　擔野重吉　川崎平右衛門　石井正義　瀨戶岡爲一郎　井上富次　宮澤文吉　坂本保治　田中四郎平　伊藤重五郎　船木治八郎　加藤唯三郎

埼玉　田島實太郎　石川藤七　永野莊吉　田島新八　北村寅吉　三井富岡製絲所　茂木矩　松尾侃次郎　長島健助　狩野仲平　石井義　板倉公平　鶴岡造酒右衛門　若林半左衛門　鮎川六衛　富澤源太郎　大比良朝二郎　飯塚連郎　檜山克太郎　菊池幸之介

群馬　永野莊吉　田島新八　北村寅吉　三井富岡製絲所　茂木矩　松尾侃次郎　長島健助　狩野仲平　千葉縣蠶絲業組合取締所　夏目延太郎　佐原金作　山本重次郎　和久田桂次郎　伊藤和次郎　島津源橘

千葉　擔野重吉　川崎平右衛門　石井正義　瀨戶岡爲一郎　井上富次　宮澤文吉　坂本保治　田中四郎平　伊藤重五郎　船木治八郎　加藤唯三郎

茨城　飯塚連郎　檜山克太郎　菊池幸之介

栃木　渡邊彥四郎　波戶場彥七　中尾伊之助　三重　愛知　山本茂樹　加藤敏次　小柳津藤治　山田島次郎　鈴木鍬太郎　岡田多作　原芳郎

岐阜　千原治作　宮澤岩吉

長野　羽生喜太郎
同　宮入國太郎
同　伊那蠶種組合事務所
同　久保田喜代太郎
同　林才次郎
同　吉澤八郎平
同　九山龍之助
同　奥村須一
同　城田彦太郎
同　小田中市作
同　宮崎虎太郎
宮城　鈴木五郎
同　田山孫八
同　吉田常治
同　伊東直之
同　田村正治
同　關民治
同　岡崎圓四郎
同　中村和五郎
同　佐藤清兵衛
福島　阿部鉞
同　加藤善兵衛
同　菊池清藏
同　中山四平

山形　阿部森吉
同　芦野彦藏
同　牧野新藏
同　眞木熊藏
同　奥山太吉
同　高橋伊八
同　東海林專三郎
同　奥山吉治
同　太田甚九郎
同　茂木英之助
同　佐藤作桑
同　鈴木玉治
同　武田勇右衛門
同　齋藤儀八郎
同　松田市太郎
同　渡邊久兵衛
同　後藤貞次郎
同　細谷謙吉
同　小野孫吉
同　柴田鶴松
同　平澤彌五郎
同　石垂大助
同　白田嘉內
同　公平友治

山形　安孫子治右衛門
同　龜山文藏
同　岸民治
同　阿部源靜
同　柴崎祐治
同　下河邊伊兵衛
同　平澤源內
同　龍澤直三
同　安孫子眞次郎
同　伊藤權右衛門
同　室岡市藏
同　佐藤喜作
同　伊藤惠治
同　細梅三郎
同　奥山末吉
同　工藤新吾
同　浅野目常藏
同　新藤健藏
同　黑木善兵衛
同　黑木源七
同　會田太吉
同　佐山安盛
同　會田六郎兵衛
同　保科忠三郎

山形　氏家英丸
同　島津益次
同　五十嵐重藏
同　栗田惣兵衛
高橋文太郎
同　後藤吉藏
同　多勢龜五郎
同　多勢吉郎治
同　竹宮次
同　元木忠吉
同　山水長左衛門
同　落合豐吉
同　佐藤祐作
同　高內嘉
同　鈴木清助
同　川合三平
同　山木駒吉
同　船山善吉
同　吉見治兵衛
同　中村豐明
同　戸狩權之助
同　濱村勘太郎
同　中島三郎
同　岡田是行
同　雄倉茂次郎

山形　奥山久四郎
同　加藤正英
同　小野寺順太
同　工藤治平
同　白田省吾
同　白田幾松
同　白田彌治右衛門
同　鈴木清助
同　吉田榮五郎
同　佐藤道三
同　栗原吉助
同　本多成允
同　高橋勝兵衛
同　仁藤重廣
同　加藤秀作
同　入見堅治
同　鈴木金藏
同　渡邊七三郎
同　岩船龜太郎
同　佐藤傳兵衛
同　志田平松
同　大川連太
同　白石市五郎
同　渡部勘兵衛

山形　鈴木助三郎
同　江口繁藏
同　高橋九兵衛
同　高橋喜太
同　和田源次郎
同　渡部助左衛門
同　鈴木吉兵衛
同　遠藤近兵衛
同　前田伸治
同　今田三郎
同　秋田清武
中島
同　山田吉次
同　近松五郎
同　最上坂直藏
同　井土久五郎
福川
同　石林眞田又次郎
同　鳥取大坂惠太郎
岡山市
同　島根本卯
岸本卓一
廣島市
同　井上順平
山內
同　森次郎
山口
同　津一
同　世良信
香川　高重逸太郎

高知　箭井慶熙　佐賀　光吉元策　熊本　佐藤大平
大分　佐藤保　鹿本　牧繁喜　鹿兒島　堀内桑二

計　二百九名

右の内にて山川、廣戸岡の二氏は下田伊左衛門氏、北島氏は境野清衛氏、小林氏以下二氏は山川靖一氏、志茂氏は川上學次郎氏熟れも紹介せられ紳藏、三井富岡製絲所、松尾、柴塩（幸之介）丸山、宮崎、山内、箭井、堀内の九氏は各自に申込まれ盛野氏は高崎治平氏、川崎、石井の二氏は鍊木喜三氏、井上（富次）氏は井上忠太郎氏、宮澤（文吉）氏は高橋信貞氏、吉澤（利八）氏は御法川直三郎氏、坂木、永野、狩野、大比良、飯塚、檜山、中尾、加藤（敏次）小柳津、山田（島次郎）原（柴平）鈴木（五郎）土坂、瓜田、大坂、厚木、津森、世良、高重、佐藤（保）光吉、牧の二十二氏は松永信作氏、田中氏は青木不一郎氏、伊藤（重五郎）松木の二氏は斯馮支會、加藤（唯三郎）氏は二宮鶴松氏、田島（賢太郎）氏は木村九藏氏、石川氏は村國傳重氏、田島（新八）北村の二氏は北村勝吉氏、茂木（廷）氏は北爪長太郎氏、長島、宮澤（岩吉）の二氏は田中眞太郎氏、千葉絲蠶絲業組合取締所は津田尚八氏、板倉氏は齋藤達太郎氏、鶴岡氏以下三氏は川村彦三氏、渡邊（彦四郎）氏は林眞太郎氏、波戸場氏は壞田興左衛門氏、山本（茂機）氏は辻村虎兒氏、鈴木（孫太郎）氏は渡邊一雄氏、岡田（多作）原（芳郎）の二氏は伊藤誠太郎氏、夏目氏以下二氏は山本庄次郎氏、和久田、伊藤（和次郎）の二氏は和久田鎰重氏、島津（源德）氏は四道支會、小野（太一郎）氏は小野元兵衛氏、千原氏は中野俊太郎氏、羽生氏は前澤滋次郎氏、宮入氏は作田潔氏、伊那蠶種組合事務所は市瀬善治氏、久保田、林（才次郎）吉澤（八郎平）奥村、城田の五氏は木下富氏、小田中氏は降旗元太郎氏、田中氏以下八氏は蠶木長氏、加藤（善兵衛）氏は淺野德三氏、菊池（清藏）中山の二氏は阿久津半藏氏、阿部（森吉）氏以下八十七氏は石山學太郎、松田宗兵衛、佐藤義晴、垂石大助、平澤瀧五郎、高橋角藏、芦野泰治、澤田銀治、吉見治兵衛、中村勝明、三條吉之助の十一氏、鈴木（金藏）渡邊七三郎の二氏は秋葉政吉氏、岩松氏は羽田喜兵衛氏、佐藤（傳兵衛）氏以下十四氏は山形支會、中島（清武）氏は今田佐吉氏、山田（吉次）氏以下二氏は原安太郎氏、林（久五郎）氏は森成次郎氏、井上（順平）氏は多賀英太郎氏、佐藤（犬平）氏は春名權四郎氏熟れも紹介せられたり

●會員の變更

本月十日の評議員會に於て本會規則第二章第六條に規定する二、三の兩項に該當するものと認め特別會員に選定

山形　長谷川平内　富山　林昌作　富山　松本七兵衛

富山　本波慶太郎

計　四名

○正誤　會報第五拾七號十八頁七行カヤホルニヤはプロテンメロン同八行シエバリーはケープの誤

●二十九年度收支決算

明治二十九年一月より十二月に至る一ヶ年間本會會計收支決算は左の如し

收入總高

一金貳千百八拾參圓九拾九錢六厘

内譯

一金千七百參拾九圓貳拾九錢　會費金
一金貳拾六圓六拾錢　寄附金
一金五圓　特別會員一時納金
一金四拾貳圓六拾六錢參厘　廣告料
一金五圓貳拾七錢參厘　預金利子
一金拾八圓六拾壹錢　雜收入
一金參百四拾六圓五拾六錢　前年度より繰越金
一金貳千百八拾參圓九拾九錢六厘　支出總高

内譯

一金五百四拾貳圓七拾壹錢五厘　印刷費
一金貳百六拾五圓參拾六錢六厘　俸給及報酬手當
一金貳百參拾九錢五厘　郵便電信料
一金八拾五圓九拾參錢七厘　什器費
一金五拾六圓九拾八錢　借家及借地料
一金參拾壹圓九拾壹錢四厘　雜用品費
一金百參拾四圓六拾壹錢　集會費
一金參拾七圓六拾九錢六厘　支會分配金
一金拾貳圓　官報及新聞通信料
一金貳圓拾六錢　運搬費
一金四拾貳圓拾壹錢七厘　雜費
一金貳拾圓六拾貳錢四厘　修繕費
一金貳拾五圓貳拾五錢　旅費
一金百九圓貳拾五錢七厘　品評會補助金
一金五百八拾四圓八拾六錢五厘　現金

右之通候也

大日本蠶絲會

入會の勸誘を望む

本會創設以來未だ多年ならざるに入會者は陸續として日に月に增加し今や栃木新潟富山靜岡山形の五縣には支會の設立をも認可するに至り會運は宛も朝暾の昇る如く駸々乎として隆昌の域に向へり是れ固より有志家諸君が熱心蠶絲業の發達を企圖せらるゝの精神に基くと雖も然れども亦本會が斯業に向つて裨益すること大且つ多なるに由らずむばあらざるなり夫れ既に然り本會は益々力め愈々盡す所あらむとす原來本會唯一の目的たるや本邦をして世界第一等の蠶絲國たらしむるにあり而して此目的を達せんと欲せば勢ひ本會員の汎く全國に涉りて最多數を要せざるを得ず就ては滿腔愛國心を以て充たし國家の最大富源たる蠶絲の改善進歩を任ぜらるゝ會員諸君は精々同志者に勸誘し入會を紹介せられ相共に提携し國家的責任を盡されむことを希望す但本會に入會せらるゝには一ヶ年分以上の會費を添へて申込まるゝを要す　尙ほ本會規則入用の方は貳錢郵券を添へ御申越あらば直ちに送呈すべし

大日本蠶絲會

◎第二回品評會收支決算

明治二十九年十月開設本會第二回品評會收支決算は左の如し

收入總高

一金參百拾貳圓參錢九厘

內譯

一金百五拾四圓七拾八錢貳厘　出品物拂下代
一金四拾八圓　寄附金
一金百九圓貳拾五錢七厘　本會より補助金
一金參百拾貳圓參錢九厘　支出總高

內譯

一金六拾圓　賞品
一金貳拾七圓　賞狀用紙代
一金拾五圓九拾錢　郵便電信料
一金貳拾六圓五錢六厘　廣告料
一金六拾五圓拾錢　審査委員等報酬
一金拾貳圓貳拾錢　雇人料
一金八圓六拾五錢八厘　諸用品費
一金七圓四拾七錢五厘　印刷費
一金拾四圓　會場借用料
一金拾九圓七拾九錢　繩費
一金參拾四圓九拾壹錢　雜費
一金貳拾錢九拾五錢　賄費

有之選候也

大日本蠶絲會

◎寄附金受領廣告

特別會員　千葉縣　津田伺人君

一金壹圓

右本會第六回大集會費として寄附せられたり

◎會員諸君に要望す

蠶絲業に關する高見卓說及實地經驗せられたる事蹟は何卒御投稿相成度且又御見聞の次第も有之候はば陸續御通信あらむことを希望す

但し表類は兎角紙面を多く要し候に付き各景況の如きは可成文章に綴りて御報告相成度候

大日本蠶絲會

◎寄稿者諸君に啓す

會員諸君の寄稿せらるゝもの漸く多きを加へ鳴聲の至りに堪へず編者は得るに隨つて之が輯錄に忍らず疎も奈何せむ紙數に制限あるを以て已むを得ず次號に讓らざる場合も之あり殊に本月の如きは編輯結了後に接手したるものも尠からず故に是等は逐次掲載すべければ請ふ諒恕せられむことを

編者再拜

大日本蠶絲會入會手續及會員心得

一　本會に入會せらるゝには住所氏名を詳記したる入會書に一ヶ月金拾錢の割合にて入會せらゝ月より向ふ一ヶ年分以上の會費を添へて申込まるべし

一　入會以前の會報を要望せらるゝときは一冊に付金拾錢を領收したる後之を送付すべし

一　會費其他の金員を本會に送致せらるゝには郵便爲替又は小爲替證書は拂渡局所名を神田淡路町と記し且つ小爲替證書の裏面右の方に設けある區畫の「差出人は此處に受取人の宿所氏名を記すべし」とある下に「東京神田美土代町二丁目一番地大日本蠶絲會」と記入せらるべし、通運便に託し現金にて送致せらるゝ節は必ず遠配賃拂込濟にせらるべし、郵便切手代用の節は必ず一割増しにて送致せらるべし

一　會費金は毎年規定の通り（翌年の分は前年十二月中に）前納せらるべし

一　氏名、住所等を變更したるときは其郡度直に本會に通知せらるべし

一　退會せらるゝときは必ず其月までの會費を拂込みたる後にあらざれば之を了諾せず

一　會員中死亡せられたるときは其家族又は其地方の會員より本會に通知せらるべし

一　會員は其本會に一件を限ひ一紙に一件宛字體は成るべく楷書にて明瞭に記し且つ何府縣何市郡何町村大日本蠶絲會何會員某と署名し又其質問を要する物件方言のみにして本名判然せざるときは成るべく現品を添へて送致せられるべし

一　會費金を督促したる後猶出金せざるものは之を本分の義務を盡されざる者と看做し本會規則に據り除名すべし

一　此心得は會員諸君常に能く了知せらるゝは勿論他人の入會を誘導せらるゝの際には殊に之を示されむことを要す

大日本蠶絲會

改姓轉居廣告

生儀今般都合に依り左の所へ轉居改姓す此段辱知諸君に謹告す

明治三十年四月　元西川事

福井縣敦賀郡　西村繁

愛發村

○會員募集

大日本織物協會

但規則書を望まるゝ向は郵券貳錢又見本の爲會報御入用に候はゝ切手拾錢送付あれば直に郵送す

東京下谷區二長町五二

農事新報

●第百二號　●一冊前金郵税共七拾五錢

●第百二號三月分發行

●郵税は南傳馬町郵便受取所振替●郵便切手代用は●郵便為替は一割増に限る●目次●國會●議事●業況●業績●調査●寄書●試驗●佛●ラミー●黴米●蠶糸●大豆●農家の競爭心及喚起せよ●種子交換に就て●北海道の鹽業●外雜錄●雜報●海藻●薄荷●著述●農事の新注意●●稻栽培法●蠶上蔟●桑園の栽培●●●

武藏多摩川特性春蠶種豫約販賣廣告

東京府北多摩郡蠶卵種業多摩組合

我多摩組合員ハ武州多摩川一名六玉川内沿岸ニ散在シ東京大都ノ水源ニシテ水清ク地秀テ空氣清朗眞ニ天賦ノ蠶桑地タル…畿者ノ深望スル處ナリ然リ而テ養蠶ノ技術ハ斯新奇拔ノ等法ヲ講シ爲ニ蠶改良ノ各社續々起リ其教授ニ派出スルノ者今ヤ數百ヲ以テ算スルノ盛況ヲ呈セリ斯ク繁勢ナルヲ以テ蠶種要望者ハ年ニ加ハリ此旺盛ニ伴ヒ組製濫造ノ弊生出スルハ事物ノ常情ナレハ之カ豫防ヲ講シ國家ニ盡スヘキノ責任ヲ以テ蠶種製造者中同感ノ有志結合シ去ル明治廿八年本組合ヲ組織シ益々進テ本務ヲ全センヿヲ期シ大日本農會北多摩支會ノ監督ヲ請ヒ(副部)檢査規則ノ通リ嚴格ナル檢査規則ノ制裁ヲ受ケハアリ前年ノ如キ顚末意外ニ多キノ本組合ノ譽ナリトス是故ニ組合員ハ一層精勵シ蠶見收繭蛾卵ノ檢査ヲ嚴密ニシ誠實以テ滿天下ニ盡サンコトヲ期ス

各地有志諸彦我多摩川特性ノ良質蠶種ヲ飼育シ蠶業經濟ヲ全フセシメラレンコトヲ希望ス

茲ニ本組合蠶種豫約手續ヲ記シ謹テ廣告ス

一　蠶種々類　小石丸　又昔　白玉　青熟

一　蠶種定價

一枚金壹圓貳拾錢　十枚以上一枚金壹圓拾錢　二十枚以上一枚金壹圓

三十枚以上五十枚迄一枚金九十錢　五十枚以上百枚迄一枚金八拾錢

一　一　一　

飼育標準改正試驗

郵税二錢　印刷料六錢

右ハ農務局元試驗場ノ試驗報告ニシテ養蠶家ノ必用ナル事項ナレバ看覽ノ便ヲ計リ其筋ノ許可ヲ得報告書ヨリ拔抄シテ印刷ス所望ノ仁申込アレ

下總國印幡郡內郷村大櫻農事講習所

◎有隣堂養蠶書之內

（養蠶は南部馬町販扱所當）

賣價

- 蠶桑生理問答　全　三拾五錢
- 栽桑實驗錄　全　四拾五錢
- 蠶論　全　八拾五錢
- 發氏養蠶術講義　全　五拾錢
- 再訂補養蠶新說　全　四拾錢
- 蠶病實驗成績　自一●至十二　三拾二錢
- 蠶桑病理問答　全　四拾錢
- 蠶桑實驗錄　全　四拾錢
- 蠶桑之眞理　全　四拾錢
- 蠶桑物語　全　三拾五錢
- 蠶桑問答　全　六錢
- 抽珍蠶桑進化論　全　二錢
- 養蠶之書　全　二拾五錢
- 普通養蠶教授書　全　六錢
- 溫暖育蠶法　全　二錢
- 養蠶本末一枚解　全　六錢
- 養蠶教方　全　二錢
- 養蠶之要訣　全　二錢
- 養蠶實驗記　全　二錢
- 小蠶育法　全　二錢
- 秋蠶造法　全　六錢
- 鳥蠶製造法　全　六錢
- 貯蔵蠶種圖說　全　二錢
- 新蠶種製造法　全　二錢
- 養蠶家之心得　全　二錢
- 蠶桑經濟貴簿記法　全　二錢
- 蠶桑方針調査表　全　二錢
- 蠶桑之要書　全　二錢
- 蠶桑實驗成績　全　二錢
- 蠶桑學理講義　全　二錢
- 蠶桑實地試驗事業　全　二錢
- 蠶桑實驗成績　全　二錢
- 蠶桑實驗賭年報　全　二錢
- 第一三節試驗報告　全　二錢
- 第一五節試驗報告　全　二錢
- 第一九節試驗報告　全　二錢
- 第二拾節試驗報告　全　二錢
- 第二拾一節試驗報告　全　二錢
- 第二拾二節試驗報告　全　二錢
- 第二拾三節試驗報告　全　二錢
- 第二拾四節試驗報告　全　二錢
- 第二拾五節試驗報告　全　二錢
- 第二拾六節試驗報告　全　二錢
- 第二拾七節試驗報告　全　二錢
- 第二拾八節試驗報告　全　二錢
- 第二拾九節試驗報告　全　二錢
- 第三拾節試驗報告　全　二錢
- 第三拾一節試驗報告　全　二錢
- 第三拾二節試驗報告　全　二錢
- 第三拾三節試驗報告　全　二錢
- 第三拾四節試驗報告　全　二錢
- 第三拾五節試驗報告　全　二錢
- 第三拾六節試驗報告　全　二錢
- 第三拾七節試驗報告　全　二錢
- 第三拾八節試驗報告　全　二錢
- 第三拾九節試驗報告　全　二錢
- 第四拾節試驗報告　全　二錢
- 第四拾一節試驗報告　全　二錢
- 第四拾二節試驗報告　全　二錢
- 第四拾三節試驗報告　全　二錢
- 第四拾四節試驗報告　全　二錢
- 第四拾五節試驗報告　全　二錢
- 第四拾六節試驗報告　全　二錢
- 第四拾七節試驗報告　全　二錢
- 第四拾八節試驗報告　全　二錢
- 第四拾九節試驗報告　全　二錢
- 第五拾節試驗報告　全　二錢
- 第五拾一節試驗報告　全　二錢
- 第五拾二節試驗報告　全　二錢
- 第五拾三節試驗報告　全　二錢
- 第五拾四節試驗報告　全　二錢
- 第五拾五節試驗報告　全　二錢
- 第五拾六節試驗報告　全　二錢
- 第五拾七節試驗報告　全　二錢
- 第五拾八節試驗報告　全　二錢
- 第五拾九節試驗報告　全　二錢
- 第六拾節試驗報告　全　二錢
- 第六拾一節試驗報告　全　二錢
- 第六拾二節試驗報告　全　二錢
- 第六拾三節試驗報告　全　二錢
- 第六拾四節試驗報告　全　二錢
- 第六拾五節試驗報告　全　二錢
- 第六拾六節試驗報告　全　二錢
- 第六拾七節試驗報告　全　二錢
- 第六拾八節試驗報告　全　二錢
- 第六拾九節試驗報告　全　二錢
- 第七拾節試驗報告　全　二錢
- 第七拾一節試驗報告　全　二錢
- 第七拾二節試驗報告　全　二錢
- 第七拾三節試驗報告　全　二錢
- 第七拾四節試驗報告　全　二錢
- 第七拾五節試驗報告　全　二錢
- 第七拾六節試驗報告　全　二錢
- 第七拾七節試驗報告　全　二錢
- 第七拾八節試驗報告　全　二錢
- 第七拾九節試驗報告　全　二錢
- 第八拾節試驗報告　全　二錢
- 第八拾一節試驗報告　全　二錢
- 第八拾二節試驗報告　全　二錢
- 第八拾三節試驗報告　全　二錢
- 第八拾四節試驗報告　全　二錢
- 第八拾五節試驗報告　全　二錢
- 第八拾六節試驗報告　全　二錢
- 第八拾七節試驗報告　全　二錢
- 第八拾八節試驗報告　全　二錢
- 第八拾九節試驗報告　全　二錢
- 第九拾節試驗報告　全　二錢
- 第九拾一節試驗報告　全　二錢
- 第九拾二節試驗報告　全　二錢
- 第九拾三節試驗報告　全　二錢
- 第九拾四節試驗報告　全　二錢
- 第九拾五節試驗報告　全　二錢
- 第九拾六節試驗報告　全　二錢
- 第九拾七節試驗報告　全　二錢
- 第九拾八節試驗報告　全　二錢
- 第九拾九節試驗報告　全　二錢
- 第一百節試驗報告　全　二錢
- 第一百一節試驗報告　全　二錢
- 第一百二節試驗報告　全　二錢
- 第一百三節試驗報告　全　二錢
- 第一百四節試驗報告　全　二錢
- 第一百五節試驗報告　全　二錢
- 第一百六節試驗報告　全　二錢
- 第一百七節試驗報告　全　二錢
- 第一百八節試驗報告　全　二錢
- 第一百九節試驗報告　全　二錢
- 第二百節試驗報告　全　二錢
- 第二百一節試驗報告　全　二錢
- 第二百二節試驗報告　全　二錢
- 第二百三節試驗報告　全　二錢
- 第二百四節試驗報告　全　二錢
- 第二百五節試驗報告　全　二錢
- 第二百六節試驗報告　全　二錢
- 第二百七節試驗報告　全　二錢
- 第二百八節試驗報告　全　二錢
- 第二百九節試驗報告　全　二錢
- 第三百節試驗報告　全　二錢
- 第三百一節試驗報告　全　二錢
- 第三百二節試驗報告　全　二錢
- 第三百三節試驗報告　全　二錢
- 第三百四節試驗報告　全　二錢
- 第三百五節試驗報告　全　二錢
- 第三百六節試驗報告　全　二錢
- 第三百七節試驗報告　全　二錢
- 第三百八節試驗報告　全　二錢
- 第三百九節試驗報告　全　二錢
- 第四百節試驗報告　全　二錢
- 第四百一節試驗報告　全　二錢
- 第四百二節試驗報告　全　二錢
- 第四百三節試驗報告　全　二錢
- 第四百四節試驗報告　全　二錢
- 第四百五節試驗報告　全　二錢
- 第四百六節試驗報告　全　二錢
- 第四百七節試驗報告　全　二錢
- 第四百八節試驗報告　全　二錢
- 第四百九節試驗報告　全　二錢
- 第五百節試驗報告　全　二錢
- 第五百一節試驗報告　全　二錢
- 第五百二節試驗報告　全　二錢
- 第五百三節試驗報告　全　二錢
- 第五百四節試驗報告　全　二錢
- 第五百五節試驗報告　全　二錢
- 第五百六節試驗報告　全　二錢
- 第五百七節試驗報告　全　二錢
- 第五百八節試驗報告　全　二錢
- 第五百九節試驗報告　全　二錢
- 第六百節試驗報告　全　二錢
- 第六百一節試驗報告　全　二錢
- 第六百二節試驗報告　全　二錢
- 第六百三節試驗報告　全　二錢
- 第六百四節試驗報告　全　二錢
- 第六百五節試驗報告　全　二錢
- 第六百六節試驗報告　全　二錢
- 第六百七節試驗報告　全　二錢
- 第六百八節試驗報告　全　二錢
- 第六百九節試驗報告　全　二錢
- 第七百節試驗報告　全　二錢
- 第七百一節試驗報告　全　二錢
- 第七百二節試驗報告　全　二錢
- 第七百三節試驗報告　全　二錢
- 第七百四節試驗報告　全　二錢
- 第七百五節試驗報告　全　二錢
- 第七百六節試驗報告　全　二錢
- 第七百七節試驗報告　全　二錢
- 第七百八節試驗報告　全　二錢
- 第七百九節試驗報告　全　二錢
- 第八百節試驗報告　全　二錢
- 第八百一節試驗報告　全　二錢
- 第八百二節試驗報告　全　二錢
- 第八百三節試驗報告　全　二錢
- 第八百四節試驗報告　全　二錢
- 第八百五節試驗報告　全　二錢
- 第八百六節試驗報告　全　二錢
- 第八百七節試驗報告　全　二錢
- 第八百八節試驗報告　全　二錢
- 第八百九節試驗報告　全　二錢
- 第九百節試驗報告　全　二錢
- 第九百一節試驗報告　全　二錢
- 第九百二節試驗報告　全　二錢
- 第九百三節試驗報告　全　二錢
- 第九百四節試驗報告　全　二錢
- 第九百五節試驗報告　全　二錢
- 第九百六節試驗報告　全　二錢
- 第九百七節試驗報告　全　二錢
- 第九百八節試驗報告　全　二錢
- 第九百九節試驗報告　全　二錢
- 第一千節試驗報告　全　二錢
- 第一千一節試驗報告　全　二錢
- 第一千二節試驗報告　全　二錢
- 第一千三節試驗報告　全　二錢
- 第一千四節試驗報告　全　二錢
- 第一千五節試驗報告　全　二錢
- 第一千六節試驗報告　全　二錢
- 第一千七節試驗報告　全　二錢
- 第一千八節試驗報告　全　二錢
- 第一千九節試驗報告　全　二錢
- 第二千節試驗報告　全　二錢
- 第二千一節試驗報告　全　二錢
- 第二千二節試驗報告　全　二錢
- 第二千三節試驗報告　全　二錢
- 第二千四節試驗報告　全　二錢
- 第二千五節試驗報告　全　二錢
- 第二千六節試驗報告　全　二錢
- 第二千七節試驗報告　全　二錢
- 第二千八節試驗報告　全　二錢
- 第二千九節試驗報告　全　二錢
- 第三千節試驗報告　全　二錢
- 第三千一節試驗報告　全　二錢
- 第三千二節試驗報告　全　二錢
- 第三千三節試驗報告　全　二錢
- 第三千四節試驗報告　全　二錢
- 第三千五節試驗報告　全　二錢
- 第三千六節試驗報告　全　二錢
- 第三千七節試驗報告　全　二錢
- 第三千八節試驗報告　全　二錢
- 第三千九節試驗報告　全　二錢
- 第四千節試驗報告　全　二錢
- 第四千一節試驗報告　全　二錢
- 第四千二節試驗報告　全　二錢
- 第四千三節試驗報告　全　二錢
- 第四千四節試驗報告　全　二錢
- 第四千五節試驗報告　全　二錢
- 第四千六節試驗報告　全　二錢
- 第四千七節試驗報告　全　二錢
- 第四千八節試驗報告　全　二錢
- 第四千九節試驗報告　全　二錢
- 第五千節試驗報告　全　二錢
- 第五千一節試驗報告　全　二錢
- 第五千二節試驗報告　全　二錢
- 第五千三節試驗報告　全　二錢
- 第五千四節試驗報告　全　二錢
- 第五千五節試驗報告　全　二錢
- 第五千六節試驗報告　全　二錢
- 第五千七節試驗報告　全　二錢
- 第五千八節試驗報告　全　二錢
- 第五千九節試驗報告　全　二錢
- 第六千節試驗報告　全　二錢
- 第六千一節試驗報告　全　二錢
- 第六千二節試驗報告　全　二錢
- 第六千三節試驗報告　全　二錢
- 第六千四節試驗報告　全　二錢
- 第六千五節試驗報告　全　二錢
- 第六千六節試驗報告　全　二錢
- 第六千七節試驗報告　全　二錢
- 第六千八節試驗報告　全　二錢
- 第六千九節試驗報告　全　二錢
- 第七千節試驗報告　全　二錢
- 第七千一節試驗報告　全　二錢
- 第七千二節試驗報告　全　二錢
- 第七千三節試驗報告　全　二錢
- 第七千四節試驗報告　全　二錢
- 第七千五節試驗報告　全　二錢
- 第七千六節試驗報告　全　二錢
- 第七千七節試驗報告　全　二錢
- 第七千八節試驗報告　全　二錢
- 第七千九節試驗報告　全　二錢
- 第八千節試驗報告　全　二錢
- 第八千一節試驗報告　全　二錢
- 第八千二節試驗報告　全　二錢
- 第八千三節試驗報告　全　二錢
- 第八千四節試驗報告　全　二錢
- 第八千五節試驗報告　全　二錢
- 第八千六節試驗報告　全　二錢
- 第八千七節試驗報告　全　二錢
- 第八千八節試驗報告　全　二錢
- 第八千九節試驗報告　全　二錢
- 第九千節試驗報告　全　二錢
- 第九千一節試驗報告　全　二錢
- 第九千二節試驗報告　全　二錢
- 第九千三節試驗報告　全　二錢
- 第九千四節試驗報告　全　二錢
- 第九千五節試驗報告　全　二錢
- 第九千六節試驗報告　全　二錢
- 第九千七節試驗報告　全　二錢
- 第九千八節試驗報告　全　二錢
- 第九千九節試驗報告　全　二錢
- 第一萬節試驗報告　全　二錢

農書肆　穴山篤太郎

東京馬町二丁目南

- 養蠶桑物語　全　三拾五錢
- 養蠶桑問答　全　六錢
- 抽珍蠶桑進化論　全　二錢
- 養蠶之書　全　二拾五錢
- 普通養蠶教授書　全　六錢
- 溫暖育蠶法　全　二錢
- 養蠶本末一枚解　全　六錢
- 養蠶教方　全　二錢
- 養蠶之要訣　全　二錢
- 養蠶實驗記　全　二錢
- 小蠶育法　全　二錢
- 秋蠶造法　全　六錢
- 鳥蠶製造法　全　六錢
- 貯蔵蠶種圖說　全　二錢
- 新蠶種製造法　全　二錢
- 養蠶家之心得　全　二錢
- 蠶桑經濟貴簿記法　全　二錢
- 蠶桑方針調査表　全　二錢
- 蠶桑之要書　全　二錢
- 蠶桑實驗成績　全　二錢
- 蠶桑學理講義　全　二錢
- 蠶桑實地試驗事業　全　二錢
- 蠶桑實驗成績　全　二錢
- 蠶桑實驗賭年報　全　二錢
- 蠶桑之眞理　全　四拾八錢

●蠶桑實驗錄　全　四拾錢

●蠶桑生理問答　全　三拾五錢

●栽桑實驗錄　全　四拾五錢

●蠶論　全　八拾五錢

●發氏養蠶術講義　全　五拾錢

●再訂補養蠶新說　全　四拾錢

●蠶病實驗成績　自一●至十二　三拾二錢

●蠶桑病理問答　全　四拾錢

●蠶桑實驗錄　全　四拾錢

●蠶桑之眞理　全　四拾錢

●蠶桑物語　全　三拾五錢

●蠶桑問答　全　六錢

●抽珍蠶桑進化論　全　二錢

●養蠶之書　全　二拾五錢

●普通養蠶教授書　全　六錢

●溫暖育蠶法　全　二錢

●養蠶本末一枚解　全　六錢

●養蠶教方　全　二錢

●養蠶之要訣　全　二錢

●養蠶實驗記　全　二錢

●小蠶育法　全　二錢

●秋蠶造法　全　六錢

●鳥蠶製造法　全　六錢

●貯蔵蠶種圖說　全　二錢

●新蠶種製造法　全　二錢

●養蠶家之心得　全　二錢

●蠶桑經濟貴簿記法　全　二錢

●蠶桑方針調査表　全　二錢

●蠶桑之要書　全　二錢

●蠶桑實驗成績　全　二錢

●蠶桑學理講義　全　二錢

●蠶桑實地試驗事業　全　二錢

●蠶桑實驗成績　全　二錢

●蠶桑實驗賭年報　全　二錢

●第一三節試驗報告　全　二錢

●第一五節試驗報告　全　二錢

●第一九節試驗報告　全　二錢

●第二拾節試驗報告　全　二錢

●第二拾一節試驗報告　全　二錢

●第二拾二節試驗報告　全　二錢

●第二拾三節試驗報告　全　二錢

●第二拾四節試驗報告　全　二錢

●第二拾五節試驗報告　全　二錢

●第二拾六節試驗報告　全　二錢

●第二拾七節試驗報告　全　二錢

●第二拾八節試驗報告　全　二錢

●第二拾九節試驗報告　全　二錢

●第三拾節試驗報告　全　二錢

●第三拾一節試驗報告　全　二錢

●第三拾二節試驗報告　全　二錢

●第三拾三節試驗報告　全　二錢

●第三拾四節試驗報告　全　二錢

●第三拾五節試驗報告　全　二錢

●第三拾六節試驗報告　全　二錢

●第三拾七節試驗報告　全　二錢

●第三拾八節試驗報告　全　二錢

●第三拾九節試驗報告　全　二錢

●第四拾節試驗報告　全　二錢

●第四拾一節試驗報告　全　二錢

●第四拾二節試驗報告　全　二錢

●第四拾三節試驗報告　全　二錢

●第四拾四節試驗報告　全　二錢

●第四拾五節試驗報告　全　二錢

●第四拾六節試驗報告　全　二錢

●第四拾七節試驗報告　全　二錢

●第四拾八節試驗報告　全　二錢

●第四拾九節試驗報告　全　二錢

●第五拾節試驗報告　全　二錢

●第五拾一節試驗報告　全　二錢

●第五拾二節試驗報告　全　二錢

●第五拾三節試驗報告　全　二錢

●第五拾四節試驗報告　全　二錢

●第五拾五節試驗報告　全　二錢

●第五拾六節試驗報告　全　二錢

●第五拾七節試驗報告　全　二錢

●第五拾八節試驗報告　全　二錢

●第五拾九節試驗報告　全　二錢

●第六拾節試驗報告　全　二錢

●第六拾一節試驗報告　全　二錢

●第六拾二節試驗報告　全　二錢

●第六拾三節試驗報告　全　二錢

●第六拾四節試驗報告　全　二錢

●第六拾五節試驗報告　全　二錢

●第六拾六節試驗報告　全　二錢

●第六拾七節試驗報告　全　二錢

●第六拾八節試驗報告　全　二錢

●第六拾九節試驗報告　全　二錢

●第七拾節試驗報告　全　二錢

●第七拾一節試驗報告　全　二錢

●第七拾二節試驗報告　全　二錢

●第七拾三節試驗報告　全　二錢

●第七拾四節試驗報告　全　二錢

●第七拾五節試驗報告　全　二錢

●第七拾六節試驗報告　全　二錢

●第七拾七節試驗報告　全　二錢

●第七拾八節試驗報告　全　二錢

●第七拾九節試驗報告　全　二錢

●第八拾節試驗報告　全　二錢

●第八拾一節試驗報告　全　二錢

●第八拾二節試驗報告　全　二錢

●第八拾三節試驗報告　全　二錢

●第八拾四節試驗報告　全　二錢

●第八拾五節試驗報告　全　二錢

●第八拾六節試驗報告　全　二錢

●第八拾七節試驗報告　全　二錢

●第八拾八節試驗報告　全　二錢

●第八拾九節試驗報告　全　二錢

●第九拾節試驗報告　全　二錢

●第九拾一節試驗報告　全　二錢

●第九拾二節試驗報告　全　二錢

●第九拾三節試驗報告　全　二錢

●第九拾四節試驗報告　全　二錢

●第九拾五節試驗報告　全　二錢

●第九拾六節試驗報告　全　二錢

●第九拾七節試驗報告　全　二錢

●第九拾八節試驗報告　全　二錢

●第九拾九節試驗報告　全　二錢

●第一百節試驗報告　全　二錢

●第一百一節試驗報告　全　二錢

●第一百二節試驗報告　全　二錢

●第一百三節試驗報告　全　二錢

●第一百四節試驗報告　全　二錢

●第一百五節試驗報告　全　二錢

●第一百六節試驗報告　全　二錢

●第一百七節試驗報告　全　二錢

●第一百八節試驗報告　全　二錢

●第一百九節試驗報告　全　二錢

●第二百節試驗報告　全　二錢

●第二百一節試驗報告　全　二錢

●第二百二節試驗報告　全　二錢

●第二百三節試驗報告　全　二錢

●第二百四節試驗報告　全　二錢

●第二百五節試驗報告　全　二錢

●第二百六節試驗報告　全　二錢

●第二百七節試驗報告　全　二錢

●第二百八節試驗報告　全　二錢

●第二百九節試驗報告　全　二錢

●第三百節試驗報告　全　二錢

●第三百一節試驗報告　全　二錢

●第三百二節試驗報告　全　二錢

●第三百三節試驗報告　全　二錢

●第三百四節試驗報告　全　二錢

●第三百五節試驗報告　全　二錢

●第三百六節試驗報告　全　二錢

●第三百七節試驗報告　全　二錢

●第三百八節試驗報告　全　二錢

●第三百九節試驗報告　全　二錢

●第四百節試驗報告　全　二錢

●第四百一節試驗報告　全　二錢

●第四百二節試驗報告　全　二錢

●第四百三節試驗報告　全　二錢

●第四百四節試驗報告　全　二錢

●第四百五節試驗報告　全　二錢

●第四百六節試驗報告　全　二錢

●第四百七節試驗報告　全　二錢

●第四百八節試驗報告　全　二錢

●第四百九節試驗報告　全　二錢

●第五百節試驗報告　全　二錢

●第五百一節試驗報告　全　二錢

●第五百二節試驗報告　全　二錢

●第五百三節試驗報告　全　二錢

●第五百四節試驗報告　全　二錢

●第五百五節試驗報告　全　二錢

●第五百六節試驗報告　全　二錢

●第五百七節試驗報告　全　二錢

●第五百八節試驗報告　全　二錢

●第五百九節試驗報告　全　二錢

●第六百節試驗報告　全　二錢

●第六百一節試驗報告　全　二錢

●第六百二節試驗報告　全　二錢

●第六百三節試驗報告　全　二錢

●第六百四節試驗報告　全　二錢

●第六百五節試驗報告　全　二錢

●第六百六節試驗報告　全　二錢

●第六百七節試驗報告　全　二錢

●第六百八節試驗報告　全　二錢

●第六百九節試驗報告　全　二錢

●第七百節試驗報告　全　二錢

●第七百一節試驗報告　全　二錢

●第七百二節試驗報告　全　二錢

●第七百三節試驗報告　全　二錢

●第七百四節試驗報告　全　二錢

●第七百五節試驗報告　全　二錢

●第七百六節試驗報告　全　二錢

●第七百七節試驗報告　全　二錢

●第七百八節試驗報告　全　二錢

●第七百九節試驗報告　全　二錢

●第八百節試驗報告　全　二錢

●第八百一節試驗報告　全　二錢

●第八百二節試驗報告　全　二錢

●第八百三節試驗報告　全　二錢

●第八百四節試驗報告　全　二錢

●第八百五節試驗報告　全　二錢

●第八百六節試驗報告　全　二錢

●第八百七節試驗報告　全　二錢

●第八百八節試驗報告　全　二錢

●第八百九節試驗報告　全　二錢

●第九百節試驗報告　全　二錢

●第九百一節試驗報告　全　二錢

●第九百二節試驗報告　全　二錢

●第九百三節試驗報告　全　二錢

●第九百四節試驗報告　全　二錢

●第九百五節試驗報告　全　二錢

●第九百六節試驗報告　全　二錢

●第九百七節試驗報告　全　二錢

●第九百八節試驗報告　全　二錢

●第九百九節試驗報告　全　二錢

●第一千節試驗報告　全　二錢

●第一千一節試驗報告　全　二錢

●第一千二節試驗報告　全　二錢

●第一千三節試驗報告　全　二錢

●第一千四節試驗報告　全　二錢

●第一千五節試驗報告　全　二錢

●第一千六節試驗報告　全　二錢

●第一千七節試驗報告　全　二錢

●第一千八節試驗報告　全　二錢

●第一千九節試驗報告　全　二錢

●第二千節試驗報告　全　二錢

●第二千一節試驗報告　全　二錢

●第二千二節試驗報告　全　二錢

●第二千三節試驗報告　全　二錢

●第二千四節試驗報告　全　二錢

●第二千五節試驗報告　全　二錢

●第二千六節試驗報告　全　二錢

●第二千七節試驗報告　全　二錢

●第二千八節試驗報告　全　二錢

●第二千九節試驗報告　全　二錢

●第三千節試驗報告　全　二錢

●第三千一節試驗報告　全　二錢

●第三千二節試驗報告　全　二錢

●第三千三節試驗報告　全　二錢

●第三千四節試驗報告　全　二錢

●第三千五節試驗報告　全　二錢

●第三千六節試驗報告　全　二錢

●第三千七節試驗報告　全　二錢

●第三千八節試驗報告　全　二錢

●第三千九節試驗報告　全　二錢

●第四千節試驗報告　全　二錢

●第四千一節試驗報告　全　二錢

●第四千二節試驗報告　全　二錢

●第四千三節試驗報告　全　二錢

●第四千四節試驗報告　全　二錢

●第四千五節試驗報告　全　二錢

●第四千六節試驗報告　全　二錢

●第四千七節試驗報告　全　二錢

●第四千八節試驗報告　全　二錢

●第四千九節試驗報告　全　二錢

●第五千節試驗報告　全　二錢

●第五千一節試驗報告　全　二錢

●第五千二節試驗報告　全　二錢

●第五千三節試驗報告　全　二錢

●第五千四節試驗報告　全　二錢

●第五千五節試驗報告　全　二錢

●第五千六節試驗報告　全　二錢

●第五千七節試驗報告　全　二錢

●第五千八節試驗報告　全　二錢

●第五千九節試驗報告　全　二錢

●第六千節試驗報告　全　二錢

●第六千一節試驗報告　全　二錢

●第六千二節試驗報告　全　二錢

●第六千三節試驗報告　全　二錢

●第六千四節試驗報告　全　二錢

●第六千五節試驗報告　全　二錢

●第六千六節試驗報告　全　二錢

●第六千七節試驗報告　全　二錢

●第六千八節試驗報告　全　二錢

●第六千九節試驗報告　全　二錢

●第七千節試驗報告　全　二錢

●第七千一節試驗報告　全　二錢

●第七千二節試驗報告　全　二錢

●第七千三節試驗報告　全　二錢

●第七千四節試驗報告　全　二錢

●第七千五節試驗報告　全　二錢

●第七千六節試驗報告　全　二錢

●第七千七節試驗報告　全　二錢

●第七千八節試驗報告　全　二錢

●第七千九節試驗報告　全　二錢

●第八千節試驗報告　全　二錢

●第八千一節試驗報告　全　二錢

●第八千二節試驗報告　全　二錢

●第八千三節試驗報告　全　二錢

●第八千四節試驗報告　全　二錢

●第八千五節試驗報告　全　二錢

●第八千六節試驗報告　全　二錢

●第八千七節試驗報告　全　二錢

●第八千八節試驗報告　全　二錢

●第八千九節試驗報告　全　二錢

●第九千節試驗報告　全　二錢

●第九千一節試驗報告　全　二錢

●第九千二節試驗報告　全　二錢

●第九千三節試驗報告　全　二錢

●第九千四節試驗報告　全　二錢

●第九千五節試驗報告　全　二錢

●第九千六節試驗報告　全　二錢

●第九千七節試驗報告　全　二錢

●第九千八節試驗報告　全　二錢

●第九千九節試驗報告　全　二錢

●第一萬節試驗報告　全　二錢

●蠶桑實驗錄　全　四拾錢

●蠶桑生理問答　全　三拾五錢

●栽桑實驗錄　全　四拾五錢

●蠶論　全　八拾五錢

●發氏養蠶術講義　全　五拾錢

●再訂補養蠶新說　全　四拾錢

●蠶病實驗成績　自一●至十二　三拾二錢

●蠶桑病理問答　全　四拾錢

●蠶桑實驗錄　全　四拾錢

●蠶桑之眞理　全　四拾錢

●蠶桑物語　全　三拾五錢

●蠶桑問答　全　六錢

●抽珍蠶桑進化論　全　二錢

●養蠶之書　全　二拾五錢

●普通養蠶教授書　全　六錢

●溫暖育蠶法　全　二錢

●養蠶本末一枚解　全　六錢

●養蠶教方　全　二錢

●養蠶之要訣　全　二錢

●養蠶實驗記　全　二錢

●小蠶育法　全　二錢

●秋蠶造法　全　六錢

●鳥蠶製造法　全　六錢

●貯蔵蠶種圖說　全　二錢

●新蠶種製造法　全　二錢

●養蠶家之心得　全　二錢

●蠶桑經濟貴簿記法　全　二錢

●蠶桑方針調査表　全　二錢

●蠶桑之要書　全　二錢

●蠶桑實驗成績　全　二錢

●蠶桑學理講義　全　二錢

●蠶桑實地試驗事業　全　二錢

●蠶桑實驗成績　全　二錢

●蠶桑實驗賭年報　全　二錢

●第一三節試驗報告　全　二錢

●第一五節試驗報告　全　二錢

●第一九節試驗報告　全　二錢

●第二拾節試驗報告　全　二錢

●第二拾一節試驗報告　全　二錢

●第二拾二節試驗報告　全　二錢

●第二拾三節試驗報告　全　二錢

●第二拾四節試驗報告　全　二錢

●第二拾五節試驗報告　全　二錢

●第二拾六節試驗報告　全　二錢

●第二拾七節試驗報告　全　二錢

●第二拾八節試驗報告　全　二錢

●第二拾九節試驗報告　全　二錢

●第三拾節試驗報告　全　二錢

●第三拾一節試驗報告　全　二錢

●第三拾二節試驗報告　全　二錢

●第三拾三節試驗報告　全　二錢

●第三拾四節試驗報告　全　二錢

●第三拾五節試驗報告　全　二錢

●第三拾六節試驗報告　全　二錢

●第三拾七節試驗報告　全　二錢

●第三拾八節試驗報告　全　二錢

●第三拾九節試驗報告　全　二錢

●第四拾節試驗報告　全　二錢

●第四拾一節試驗報告　全　二錢

●第四拾二節試驗報告　全　二錢

●第四拾三節試驗報告　全　二錢

●第四拾四節試驗報告　全　二錢

●第四拾五節試驗報告　全　二錢

●第四拾六節試驗報告　全　二錢

●第四拾七節試驗報告　全　二錢

●第四拾八節試驗報告　全　二錢

●第四拾九節試驗報告　全　二錢

●第五拾節試驗報告　全　二錢

●第五拾一節試驗報告　全　二錢

●第五拾二節試驗報告　全　二錢

●第五拾三節試驗報告　全　二錢

●第五拾四節試驗報告　全　二錢

●第五拾五節試驗報告　全　二錢

●第五拾六節試驗報告　全　二錢

●第五拾七節試驗報告　全　二錢

●第五拾八節試驗報告　全　二錢

●第五拾九節試驗報告　全　二錢

●第六拾節試驗報告　全　二錢

●第六拾一節試驗報告　全　二錢

●第六拾二節試驗報告　全　二錢

●第六拾三節試驗報告　全　二錢

●第六拾四節試驗報告　全　二錢

●第六拾五節試驗報告　全　二錢

●第六拾六節試驗報告　全　二錢

●第六拾七節試驗報告　全　二錢

●第六拾八節試驗報告　全　二錢

●第六拾九節試驗報告　全　二錢

●第七拾節試驗報告　全　二錢

●第七拾一節試驗報告　全　二錢

●第七拾二節試驗報告　全　二錢

●第七拾三節試驗報告　全　二錢

●第七拾四節試驗報告　全　二錢

●第七拾五節試驗報告　全　二錢

●第七拾六節試驗報告　全　二錢

●第七拾七節試驗報告　全　二錢

●第七拾八節試驗報告　全　二錢

●第七拾九節試驗報告　全　二錢

●第八拾節試驗報告　全　二錢

●第八拾一節試驗報告　全　二錢

●第八拾二節試驗報告　全　二錢

●第八拾三節試驗報告　全　二錢

●第八拾四節試驗報告　全　二錢

●第八拾五節試驗報告　全　二錢

●第八拾六節試驗報告　全　二錢

●第八拾七節試驗報告　全　二錢

●第八拾八節試驗報告　全　二錢

●第八拾九節試驗報告　全　二錢

●第九拾節試驗報告　全　二錢

●第九拾一節試驗報告　全　二錢

●第九拾二節試驗報告　全　二錢

●第九拾三節試驗報告　全　二錢

●第九拾四節試驗報告　全　二錢

●第九拾五節試驗報告　全　二錢

●第九拾六節試驗報告　全　二錢

●第九拾七節試驗報告　全　二錢

●第九拾八節試驗報告　全　二錢

●第九拾九節試驗報告　全　二錢

●第一百節試驗報告　全　二錢

●第一百一節試驗報告　全　二錢

●第一百二節試驗報告　全　二錢

●第一百三節試驗報告　全　二錢

●第一百四節試驗報告　全　二錢

●第一百五節試驗報告　全　二錢

●第一百六節試驗報告　全　二錢

●第一百七節試驗報告　全　二錢

●第一百八節試驗報告　全　二錢

●第一百九節試驗報告　全　二錢

●第二百節試驗報告　全　二錢

●第二百一節試驗報告　全　二錢

●第二百二節試驗報告　全　二錢

●第二百三節試驗報告　全　二錢

●第二百四節試驗報告　全　二錢

●第二百五節試驗報告　全　二錢

●第二百六節試驗報告　全　二錢

●第二百七節試驗報告　全　二錢

●第二百八節試驗報告　全　二錢

●第二百九節試驗報告　全　二錢

●第三百節試驗報告　全　二錢

●第三百一節試驗報告　全　二錢

●第三百二節試驗報告　全　二錢

●第三百三節試驗報告　全　二錢

●第三百四節試驗報告　全　二錢

●第三百五節試驗報告　全　二錢

●第三百六節試驗報告　全　二錢

●第三百七節試驗報告　全　二錢

●第三百八節試驗報告　全　二錢

●第三百九節試驗報告　全　二錢

●第四百節試驗報告　全　二錢

●第四百一節試驗報告　全　二錢

●第四百二節試驗報告　全　二錢

●第四百三節試驗報告　全　二錢

●第四百四節試驗報告　全　二錢

●第四百五節試驗報告　全　二錢

●第四百六節試驗報告　全　二錢

●第四百七節試驗報告　全　二錢

●第四百八節試驗報告　全　二錢

●第四百九節試驗報告　全　二錢

●第五百節試驗報告　全　二錢

●第五百一節試驗報告　全　二錢

●第五百二節試驗報告　全　二錢

●第五百三節試驗報告　全　二錢

●第五百四節試驗報告　全　二錢

●第五百五節試驗報告　全　二錢

●第五百六節試驗報告　全　二錢

●第五百七節試驗報告　全　二錢

●第五百八節試驗報告　全　二錢

●第五百九節試驗報告　全　二錢

●第六百節試驗報告　全　二錢

●第六百一節試驗報告　全　二錢

●第六百二節試驗報告　全　二錢

●第六百三節試驗報告　全　二錢

●第六百四節試驗報告　全　二錢

●第六百五節試驗報告　全　二錢

●第六百六節試驗報告　全　二錢

●第六百七節試驗報告　全　二錢

●第六百八節試驗報告　全　二錢

●第六百九節試驗報告　全　二錢

●第七百節試驗報告　全　二錢

●第七百一節試驗報告　全　二錢

●第七百二節試驗報告　全　二錢

●第七百三節試驗報告　全　二錢

●第七百四節試驗報告　全　二錢

●第七百五節試驗報告　全　二錢

●第七百六節試驗報告　全　二錢

●第七百七節試驗報告　全　二錢

●第七百八節試驗報告　全　二錢

●第七百九節試驗報告　全　二錢

●第八百節試驗報告　全　二錢

●第八百一節試驗報告　全　二錢

●第八百二節試驗報告　全　二錢

●第八百三節試驗報告　全　二錢

●第八百四節試驗報告　全　二錢

●第八百五節試驗報告　全　二錢

●第八百六節試驗報告　全　二錢

●第八百七節試驗報告　全　二錢

●第八百八節試驗報告　全　二錢

●第八百九節試驗報告　全　二錢

●第九百節試驗報告　全　二錢

●第九百一節試驗報告　全　二錢

●第九百二節試驗報告　全　二錢

●第九百三節試驗報告　全　二錢

●第九百四節試驗報告　全　二錢

●第九百五節試驗報告　全　二錢

●第九百六節試驗報告　全　二錢

●第九百七節試驗報告　全　二錢

●第九百八節試驗報告　全　二錢

●第九百九節試驗報告　全　二錢

●第一千節試驗報告　全　二錢

●第一千一節試驗報告　全　二錢

●第一千二節試驗報告　全　二錢

●第一千三節試驗報告　全　二錢

●第一千四節試驗報告　全　二錢

●第一千五節試驗報告　全　二錢

●第一千六節試驗報告　全　二錢

●第一千七節試驗報告　全　二錢

●第一千八節試驗報告　全　二錢

●第一千九節試驗報告　全　二錢

●第二千節試驗報告　全　二錢

●第二千一節試驗報告　全　二錢

●第二千二節試驗報告　全　二錢

●第二千三節試驗報告　全　二錢

●第二千四節試驗報告　全　二錢

●第二千五節試驗報告　全　二錢

●第二千六節試驗報告　全　二錢

●第二千七節試驗報告　全　二錢

●第二千八節試驗報告　全　二錢

●第二千九節試驗報告　全　二錢

●第三千節試驗報告　全　二

養蠶床換七島綱販賣廣告

麻や本綿の綱より便利にして廉價なるは眞用諸君の承認する處なり代價蠶箔の寸尺に據り一定ならすと雖も四五齡用にて一枚に付八厘より壹錢五厘迄運賃先掃使用年限四五年を保つ

右蠶箔の寸尺に應し如何樣とも製造販賣仕候間御注文奉願候

七島綱製造部　福岡縣筑上郡見上村博愛館　安仲虎吉

人造肥料廣告

●商標

●第三回第四回勸業博覽會有功二等賞牌
●大日本農會第三十二回農產品評會賞狀賜ヲ
●人造肥料各種　●骨粉　●肥料　●製骨粉

純良過燐酸

右成分保證の上品質善良正確なるものを以て格別勉強代價にて手廣に販賣仕候間不相替御注文の程奉願候
尚詳細施用方法書御入用の方は御報次第送呈す

東京市本所區菊川町二丁目五拾七番地　日本人造肥料製造販賣元祖　松原製造所

春蠶種豫約販賣廣告

該種類ヲ小紋等ト稱スル者アリ故ニ白玉ノ大振成貴白玉ニ全然少掃立賣聽的ニナシ能書ヲ告サズ今ノ世ニ

白鶴

トハス敢ヒ壹丹二百丹紋位

計貳種

本所特別精撰

ハ不成ノ種類ヲ製造スル者ナシ壹枚金壹圓廿錢十枚以上廿五枚迄壹割引其餘ハ照會アレ相談ス

原種用框製

保證金ハ豫約ノ節貳割ヲ申受ル殘額金ハ九月下旬ノ蠶種ハ十月下旬迄ニ送ル

競進社飼育法

母蛾付壹蛾金貳錢檢査濟ハ全三錢豫約期限ヲ六月廿日迄トス過怠費ハ無料為替金ハ坂戸局ノ

水養蠶傳習所

埼玉縣武藏國入間郡大家村大字厚川九番地　所長　福島桂三郎

春蠶種豫約分讓

大日本蠶絲會員並農家一致協會員限

大又白龍中巢小石丸

種類

右各種通シテ百蛾付五百枚限一枚實費金六十錢原種用檢査濟三百枚限廿八蛾付一枚實費三十錢殘金ハ

無毒保證豆

豫約保證金ハ實費ノ半額殘金ハ九月下旬豫約申込ハ本年五月限

全國無過怠料為替振込笠井郵便電信局

靜岡縣濱名郡笠井町　今泉保太郎